

平成25年度カタクチイワシ太平洋系群の資源評価

責任担当水研：中央水産研究所（渡邊千夏子、水戸啓一、岡村 寛・市野川桃子・川端 淳・本田 聡）

参画機関：東北区水産研究所、瀬戸内海区水産研究所、北海道立総合研究機構釧路水産試験場、地方独立行政法人青森県産業技術センター水産総合研究所、岩手県水産技術センター、宮城県水産技術総合センター、福島県水産試験場、茨城県水産試験場、千葉県水産総合研究センター、東京都島しょ農林水産総合センター、神奈川県水産技術センター、静岡県水産技術研究所、愛知県水産試験場漁業生産研究所、三重県水産研究所、和歌山県水産試験場、徳島県立農林水産総合技術支援センター水産研究所、高知県水産試験場、愛媛県農林水産研究所水産研究センター、大分県農林水産研究指導センター水産研究部、宮崎県水産試験場

要 約

仔魚期にシラスとして船曳網等で、未成魚～成魚はまき網、定置網等で漁獲される。漁場は沿岸域を中心に形成される。資源量は2003年をピークとして減少傾向であり、過去30年の変動から2006年まで高位水準であったが、以降中位水準となった。最近5ヶ年の動向は減少傾向である。コホート解析により推定された現在の親魚量（2012年の385千トン）は、再生産関係において良好な加入を期待しにくくなる親魚量（ B_{limit} 、130千トン）よりも十分高いことから、ABCの算定にあたっては基本規則（平成25年度）の1-1)-(1)を適用し、 $F_{limit} = F_{med}$ の時の漁獲量を ABC_{limit} 、 $F_{target} = F_{limit} \times 0.8$ の時の漁獲量を ABC_{target} とした。

	2014年ABC	資源管理基準	F値	漁獲割合
ABC_{limit}	158千トン	F_{med}	0.98	27%
ABC_{target}	139千トン	$0.8F_{med}$	0.78	24%

F値は漁獲の主対象群となる1歳魚の漁獲係数。

年	資源量（千トン）	漁獲量（千トン）	F値	漁獲割合
2011	586	161	1.25	28%
2012	555	151	0.90	27%
2013	571	—	—	—

水準：中位 動向：減少

本件資源評価に使用したデータセットは以下のとおり

データセット	基礎情報、関係調査等
年齢別・年別漁獲尾数	漁業・養殖業生産統計年報（農林水産省） 主要港水揚量（北海道～鹿児島（18）道県、関係府県） 体長組成調査、精密測定調査（水研セ、北海道～鹿児島（18）道県 等）
自然死亡係数 (M)	0～1歳魚は1.0、2歳魚は1.6、3歳魚は1.9（補足資料2を参照）
資源量指数 ・ 大中型まき網の漁獲努力量 ・ 産卵量 ・ 秋季トロール調査CPUE ・ 冬春季の常磐・房総海域漁獲量 ・ 3～6月の大中型まき網の資源量指数	分布回遊状況解析調査（JAFIC） 卵稚仔調査（水研セ、青森～鹿児島（18）都県）：ノルパックネット、CTD等 北西太平洋秋季浮魚類調査（9～10月、中央水研） 主要港水揚量（千葉県、茨城県、福島県）、体長組成調査 分布回遊状況解析調査（JAFIC）
卵数法による親魚資源量推定	・ 産卵量、産卵水温（上述の卵稚仔調査より） ・ 体長、体重、性別、生殖腺重量（精密測定調査（北海道～鹿児島（18）道県）より）

1. まえがき

本資源は、仔魚期にシラスとして船曳網などで漁獲され、未成魚～成魚はまき網漁業の対象となる。近年は1歳魚が漁獲の主体となっている。マイワシの資源水準の低下と同期して資源水準が上昇し、近年、まき網により多獲されるようになってきているが、最近の資源水準は減少傾向にある。現在の系群の分布域は沖合にまで広がっているが、漁場は沿岸に形成されている。

2. 生態

(1) 分布・回遊

分布域は、九州から北海道に至る太平洋の沿岸から沖合の黒潮域、黒潮続流域、黒潮親潮移行域、親潮域にまで拡大しており（図 1）、東経170度付近まで分布が認められる。

(2) 年齢・成長

寿命はこれまでの鱗の読輪結果から4歳としている。成長は太平洋北区における過去の報告ならびに近年の解析により、満1歳で被鱗体長8 cm程度、2歳で13 cm、3歳で14.5 cm程度であり、太平洋中区から南区ではこれよりもやや成長が早い（図 2）。体長-体重関係は以下の回帰式で示される（1998～2007年のパラメータの平均）。

$$\text{体重(g)} = 0.010 \times \text{体長}^{3.00} \text{ (cm)}$$

(3) 成熟・産卵

産卵は冬季を除くほぼ周年。満1歳で成熟する。生物学的最小形は8 cmと報告されていることから、0歳では成熟していないと仮定した（図 2）。資源の低水準期には、分布は内湾から沿岸に限られ産卵の中心は夏季であるが、高水準期には分布が沖合にまで広がり、産卵盛期も早春から秋までと長い。産卵盛期は4～7月である（図 3、4、表 1）。

(4) 被捕食関係

動物プランクトン等を摂餌する。中大型の浮魚類や鯨類に捕食される。

3. 漁業の状況

(1) 漁業の概要

福島県から鹿児島県の沿岸では、シラス船曳網等により春から秋までシラスとして漁獲される。1999～2004年では未成魚・成魚の漁獲の30～35%が常磐・房総の大中型まき網によるものであったが、2008年以降は10%前後であり、近年は房総沿岸の2そうまきによる漁獲が増加傾向にある。また各地の定置網ならびに道東をはじめ、各地の中・小型まき網でも漁獲される。常磐・房総の大中型まき網の漁期は12～6月である。資源量が多い年には9～11月に道東から三陸、1～5月に熊野灘や日向灘でも多獲される。黒潮・親潮移行域の沖合に分布する魚群はほとんど漁獲対象となっていない。

(2) 漁獲量の推移

本系群の漁獲量は、1989年まで数万トンで推移していたが、1990年に太平洋北区で急増し20万トンを超えた。その後の漁獲量は、年変動が激しいものの概ね増加傾向であり、2003年には過去最高の41万トンとなった。漁獲量はその後減少し、2007～2010年で21～25万トン、2011年で16万トン、2012年で15万トンとなった（図 5、表 2）。

東日本大震災による本資源の漁獲動向への影響として、常磐・房総～三陸における漁獲量の減少があったと考えられる（図 6、表 3）。2012年は太平洋北部大中型まき網による漁獲量、努力量が大幅に減少した（図 6、表 3）。

4. 資源の状態

(1) 資源評価の方法

本報告では年齢別漁獲尾数に基づくコホート解析による資源量推定を基本とした。高水準期は、分布域が沖合まで拡大するものの漁場は沿岸域に限られているため、漁場内外の交流が十分でない場合には、漁獲情報による資源量の推定のみでは資源の動向を見誤る可能性がある。このため資源の状況をよりの確に把握しておく必要性から、漁場域よりも更に広範囲で行われている産卵調査結果（図 3、4）を基に、卵数法（渡部 1983）により親魚量を計算（表 1）し、コホート解析により求めた推定親魚量との比較を行っている。

(2) 資源量指標値の推移

太平洋北部大中型まき網の網数と投網当たりの水揚量（CPUE）を見ると、2001年から2004年は努力量が高水準で推移しておりCPUEはやや低めであったが、2005年には努力量が減少しCPUEが上昇した。2008年から2011年は努力量が低水準でCPUEは中程度で安定していた。2012年は努力量が大きく減少したが、CPUEは近年の水準と同等であった（図 6、表 3）。

産卵調査によって得られた卵の分布量を緯度経度30分升目毎に集計して推定した産卵量のうち、大海区I～IV（図 3）における2012年1～12月の産卵量の月別分布を図 4に示した。また、大海区I～IVにおける年間産卵量の推移を図7および表 4に示した。産卵量は1991年に急増した後、1996年まで緩やかに減少した。その後1999年に急増して1京粒を越えた後は、最近年まで1京粒前後の高水準の産卵量が維持されている。産卵量は2008年に4,427兆粒と減少し、最近10年の中では最も低かったが、2009～2011年には回復し7,000～9,000兆粒となった。2012年は9,518兆粒と2011年（7,042兆粒）を上回った（図 7、表 4）。

2001年から実施されている北西太平洋秋季浮魚類調査において、調査海域を拡大した2003年以降、道東海域のみならず千島列島東方沖にも本資源が広く分布していることが明らかとなってきた。千葉県水産総合研究センターによる解析の結果、同調査における体長11 cm未満のカタクチイワシのCPUE（尾/曳網）と、冬春季に常磐・房総海域で漁獲される年明け1歳魚の漁獲量の間に相関関係があること、また同調査における体長11 cm以上のCPUEと年明け2歳魚の漁獲量の間にも相関関係があることが明らかとなった。同調査における体長11 cm未満のCPUEは2003年で最高、2004年で最低で、2012年は過去10年間で2番目に低かった。体長11 cm以上のCPUEは2004年で最も高く、2011年までの過去9年間では減少傾向であるが、2012年には高くなった（図 8、表 5）。

常磐・房総海域は例年、冬春季が主漁期となる（例：2012年11月～2013年6月、これを2013年漁期とする）。この時期の漁獲物のうち、体長12 cm未満の漁獲量は当年漁期の前年（2013年漁期ならば2012年）の0歳魚資源量と、体長12cm以上の漁獲量は当年漁期（2013

年漁期ならば2013年）の親魚量とそれぞれ相関が高い。体長12 cm未満の漁獲量は2002～2004年漁期で最高となって以降は減少傾向にあり、2013年漁期（2012年11月～2013年6月）の漁獲量は過去最低になった。体長12 cm以上の漁獲量は2003～2005年漁期で最高となり、以降減少傾向であるが、2013年漁期は2012年漁期より増加した（図 8、表 6）。

常磐・房総海域での漁獲物の年齢組成は、漁期の前半（前年11～当年2月）に2歳魚と1歳魚とが混じり、後半（当年3～6月）に1歳魚が主体となることが多い。このため、北部太平洋まき網による資源量指数のうち、当年3月～6月の合計値は前年の0歳魚資源量の指標となる。この指標値は2003年に最大で以降減少傾向にあり、2012年は2011年を下回り1998年以降で最低であった（図 8、表 3）。この指標値は、同じく0歳魚資源量の指標となる北西太平洋秋季浮魚調査の体長11 cm未満のCPUEおよび常磐・房総海域の体長12 cm未満の漁獲量と比べると、直近年で異なる動向を示したが、これは2012年漁期に北部太平洋まき網のカタクチイワシに対する努力量が低下したためと考えられる（補足資料2）。

（3）漁獲物の年齢組成

1988年までは0歳魚尾数が過半数を占める年が多かったが、1990年以降は1歳魚が大半で、2歳魚も目立つようになった（図 9、10、表 7、8）。なお漁獲尾数を求めるにあたって、年齢別平均体重を推定した（表 9）。漁獲量が多かった2002～2004年および2006年は1歳魚の割合が80 %以上と高かったが、2008年では1歳魚漁獲尾数が全体の6割となり、0歳魚の割合が3割まで増加した。2009～2011年では1歳魚が7～8割であった。2012年には0歳魚の割合が3割となり、2008年の年齢組成に類似した。

（4）資源量と漁獲割合の推移

卵数法により推定した親魚量は1991年に増加した後、1996年までやや減少し、1999年以降は高～中水準で変動幅が大きく、2012年で111万トンとなり、2011年の85万トンを上回った（図 11、表 4）。コホート解析により推定された親魚量は、資源量が急増した1998年以前は卵数法による推定値と同レベルで変動していたが、資源が沖合にも拡大した1998年以降は卵数法の推定値に比べて低めに推移しており、その変動もコホート解析の特性を反映し小さなものとなっている（図 11）。2011年まで本州東方海域で実施された越冬期浮魚類現存量推定調査（2月、中央水研、俊鷹丸）における調査海域9万 km²に標準化した現存量推定結果では、2002～2004年まで100～200万トン、2005年以降で8～40万トン、2011年で11万トンと推定され、近年は沖合域の分布量の減少が顕著に示されている（前年度報告書補足資料3参照）。

以上の結果から、近年は沖合域への分布拡大・縮小の振幅が大きく、産卵調査や計量魚探調査結果に基づけば、最近7～8年の間に少なくとも沖合域においては資源が大幅に減少してきたことが示唆される。コホート解析の推定値は特に高水準期において資源量推定値としては過小評価となっている可能性が高いが、コホート解析による推定値は漁

場に近い沿岸域に分布する資源の水準を反映しているものと考え、本報告ではコホート解析結果を資源量推定値として採用し、将来予測にはコホート解析の前進法を適用した。なお、2012年は3-(2)、4-(2)および図 6に示したように、太平洋北部大中型まき網による努力量が減少しており、この点を考慮せずにコホート解析を行うと資源量を過小評価する可能性が高いと考えられたことから、補足資料2に示した方法で2012年の漁獲係数に努力量の減少の影響を反映させた。

加入尾数は1997年以降、1,000億尾前後の高い水準を維持している（図 12、表 10）。ただし、最近5～6年の0歳魚加入尾数は1997～2005年より低い水準である。

コホート解析により推定された資源量は、1988年までは低水準で50万トン未満であったが、1989年に50万トンを上回り、1998年以降、90万トンを超える高水準となった（表 12）。資源量は2003年（149万トン）をピークとして減少傾向となり、2007～2010年で71万～81万トン、2012年は55万トンと推定され、2011年の59万トンより若干減少した。

過去30年の平均漁獲割合は27.7%であり、2006～2010年は28.1～34.9%とやや高くなったが、2011年、2012年は27.5%、27.1%と過去30年平均と同程度の水準で推移した（図 13、表 11）。

（5）資源の水準・動向

資源水準は過去30年の変動の中で「中位」、動向は最近5年の資源量の推移から「減少」と判断した。なお、資源水準は、1988年と1989年の間で資源量が31万トンから55万トンに急増しており、1988年以前と1989年以降とで資源水準に明瞭な違いが見られることから、この間の40万トンを資源水準の低位/中位の境界とした。資源量のピークは2003年の149万トンで、2003年はその前後の年より突出して高かったことから、40万トンと149万トンの中間よりやや低めの90万トンを中位/高位の境界とした（図 13）。

（6）再生産関係

親魚量と0歳魚加入尾数との関係を図14に示す。将来予測にあたっては、資源が低水準から中～高水準にシフトした1989年以降の再生産成功率中央値（RPSmed）に相当する174.1尾/kgを適用したが、年々の0歳魚加入尾数は過去の最大値（1,599億尾）を上限とした。

（7）Blimitの設定

再生産関係（図 14）から、1987～1988年の親魚量水準（約130千トン）以下では良好な0歳魚の加入が期待しにくくなると考えられる。また、親魚の主群となる1歳魚の漁獲係数の経年変化と、漁獲係数と親魚量の関係（図 15）から、1987年以前の親魚量水準では漁獲係数が高まりやすくなると考えられる。以上の根拠から、Blimitは、それ以下では高い加入を期待しにくく漁獲が資源に与える影響が高くなると考えられる1987～1988

年の親魚量水準（130千トン）に設定した。

(8) 生物学的な漁獲係数の基準値と現状の漁獲圧の関係

漁獲係数と、漁獲がない場合の加入量当たり親魚量に対する百分率 (%SPR)、加入量当たり漁獲量 (YPR) との関係を図16に示す。現状の漁獲係数 ($F_{current}$) は最近年を除く過去5年 (2007～2011年) の平均値を基準とし、1歳魚以上の漁獲係数について補足資料2で推定した漁獲係数の削減率を掛けたものを $F_{current}$ とした。これによると $F_{current}$ (0.87、補足資料2) は1989年以降のRPSの中央値 ($RPS_{med} = 174.1$ 尾/kg) に相当するF値 ($F_{med} = 0.98$ 、補足資料2) より低く、現状の漁獲で資源は緩やかに増加する (5. (3) ABClimitの評価参照)。なお F_{med} の計算に必要な選択率は、 $F_{current}$ の選択率に等しいとした (補足資料2)。

5. 2014年ABCの算定

(1) 資源評価のまとめ

本系群の資源水準は中位であり、現在の親魚量は再生産関係から見て高い加入を期待しにくくなる親魚量 (B_{limit} 、130千トン) より高い。動向は近年5年間の資源量の推移から減少と判断される。

(2) ABC並びに推定漁獲量の算定

現在の親魚量は再生産関係から見て良好な加入を期待しにくくなる親魚量 (B_{limit}) より多く、再生産関係が利用可能であることから、管理基準として「平成25年度ABC算定のための基本規則」の1-1)-(1)を用いる。再生産関係のプロットの中央値に相当するF値 ($F_{med} = 0.98$) を管理基準と考え、 $F_{limit} = F_{med}$ の時の漁獲量をABClimit、 $F_{target} = 0.8 F_{med}$ の時の漁獲量をABCtargetとした (表 13、14)。 F_{med} での漁獲の際には $F_{current}$ における選択率を適用した。2013年以降の加入は RPS_{med} (174.1尾/kg) により求めた。2013年の漁獲量は $F_{current}$ 相当の漁獲圧があったと仮定して推定した。

	2014年ABC	資源管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	158千トン	F_{med}	0.98	27%
ABCtarget	139千トン	$0.8F_{med}$	0.78	24%

F値は漁獲の主対象群となる1歳魚の漁獲係数。

(3) ABClimitの評価

漁獲係数を管理指標値として、 $F_{current}$ を変化させた場合の漁獲量と親魚量の推移を予測した。なおF値は1歳魚のFである。

F	基準値	漁獲量（千トン）					親魚量（千トン）				
		2014	2015	2016	2017	2018	2014	2015	2016	2017	2018
0.00	0 Fcurrent	0	0	0	0	0	401	571	768	1037	1302
0.17	0.2 Fcurrent	42	58	72	91	115	401	528	665	842	1067
0.35	0.4 Fcurrent	77	96	113	135	162	401	491	584	697	832
0.52	0.6 Fcurrent	105	122	137	155	175	401	460	519	587	663
0.70	0.8 Fcurrent	129	140	150	161	173	401	434	466	501	539
0.90	Fcurrent	148	152	156	160	165	401	411	423	434	446
0.98	Flimit=Fmed	158	158	158	158	158	401	399	400	399	399

(4) ABCの再評価

昨年度評価以降追加されたデータセット	修正・更新された数値
2011年漁獲量確定値	2011年漁獲量の確定、161,025トンから161,340トンへ修正。
過去に遡及した年齢別漁獲尾数・年齢別平均体重の見直し	2006年まで遡り主要港漁獲量を微修正したことに伴い年齢別漁獲尾数と年齢別平均体重が修正された。
2012年年齢別・年別漁獲尾数	2012年の年齢別資源尾数、再生産関係、漁獲係数、年齢別選択率の追加。
2012年年齢別体重	過去5年平均に基づく推定値（0～3歳魚で順に2.9、13.9、24.3、32.7）を、漁獲データに基づく値（0～3歳魚で順に2.7、13.2、24.2、32.5）に修正した。

評価対象年 (当初・再評価)	管理基準	F値	資源量 (千トン)	ABClimit (千トン)	ABCtarget (千トン)	漁獲量 (千トン)
2012年(当初)	Fmed	1.06	816	227	202	
2012年(2012年再評価)	Fmed	1.12	651	185	164	
2012年(2013年再評価)	Fmed	0.98	555	151	130	150
2013年(当初)	Fmed	1.12	645	184	163	
2013年(2013年再評価)	Fmed	0.98	568	153	134	

*F値は漁獲の主対象群となる1歳魚の漁獲係数。

本年度の再評価においては、2011年、2012年の両年で推定資源量が下方修正され、これに伴いABCも下方修正された。両年とも、当初評価時に直近年の資源量を過大評価していたこと、FmedのF値が低下したことに起因する。しかし太平洋北部大中型まき網の努力量の低下の影響（補足資料2）は、十分に評価できていない可能性があることから、今後とも直近の漁況や調査結果を参照するとともに、漁業の動向に注視する必要がある。

6. ABC以外の管理方策の提言

カタクチイワシは未成魚・成魚としての漁業対象であるばかりでなく、仔魚期にはシラスとして沿岸漁業における重要魚種となっている。シラス漁業による仔魚の漁獲が資源に影響を与える可能性が懸念されるため、シラス漁獲量を集計し、加入量との関係について精査した。太平洋系群のシラス漁獲量（福島県～宮崎県の太平洋南区～北区の漁業・養殖業生産統計年報による漁獲量の合計）は、近年1～4万トンで推移している（図 18）。シラス漁獲量と0歳魚資源尾数との関係を見ると、有意な相関関係は認められなかった（ $r^2 = 0.003$ 、 $p = 0.81$ ）。産卵場および仔稚魚の生育場は、本州南方の黒潮内側域全域のみならず、三陸・常磐海域の遥か東方沖合まで広大であることに比べて、シラス漁場は水深20～30 mまでの甚だ狭い沿岸域に限定され、また海況による来遊量変動が大きいため、シラス漁獲量と0歳魚資源尾数との間に相関が見られないと考えられる。また、以上のようにシラス漁場は資源の分布域全体から見ればごく一部の海域であることから、シラス漁業が太平洋系群の資源に与える影響は少ないと考えられる。

なお、ここに示したシラス漁獲量推定値において、多くの県でマイワシ、ウルメイワシ等の他魚種のシラス漁獲量が分離されていないが、漁獲の大部分はカタクチイワシのシラスであると考えられる。

7. 引用文献

渡部泰輔 (1983) 卵数法. 水産資源の解析と評価 その手法と適用例（石井丈夫編）. 恒星社厚生閣, 東京, 9-29.



図1. カタクチイワシ太平洋系群の分布・回遊図

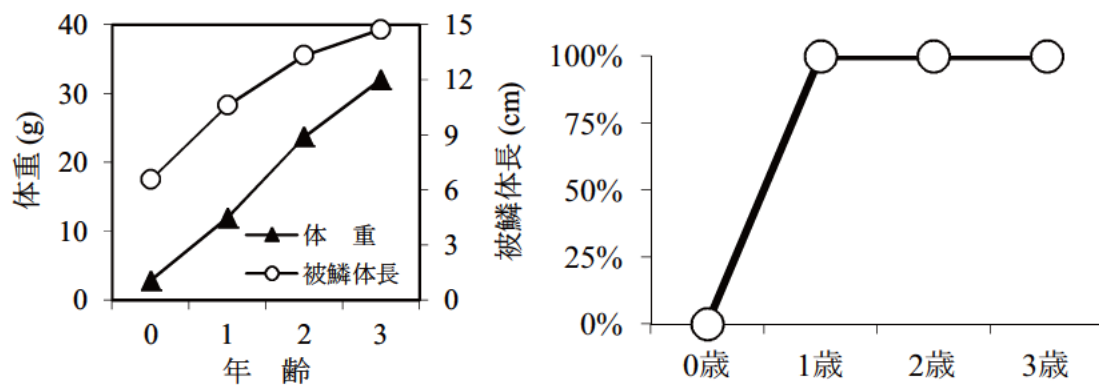


図2. カタクチイワシ太平洋系群の年齢・成長(左)と年齢別成熟割合(右)

体重は、各年の年齢別平均体重の1978～2012年の平均

被鱗体長は、その体重から $\text{体重(g)} = 0.01 \times \text{体長(cm)}^3$ の関係式により換算

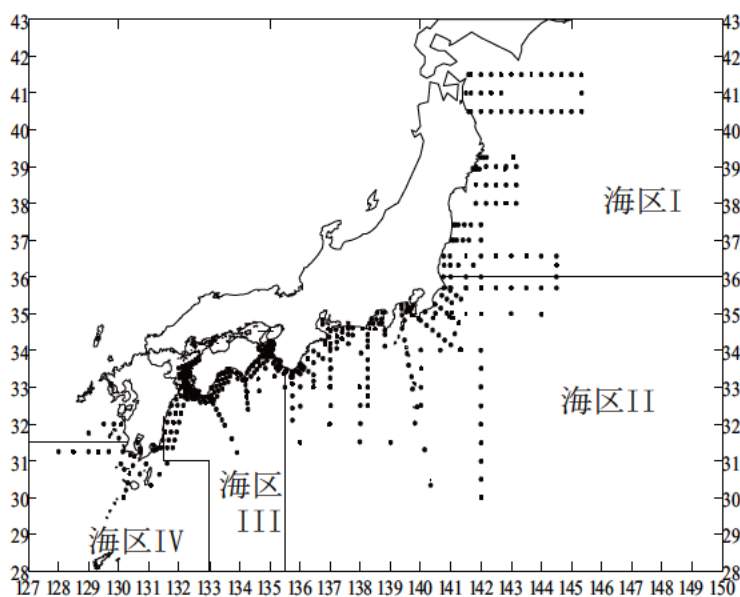
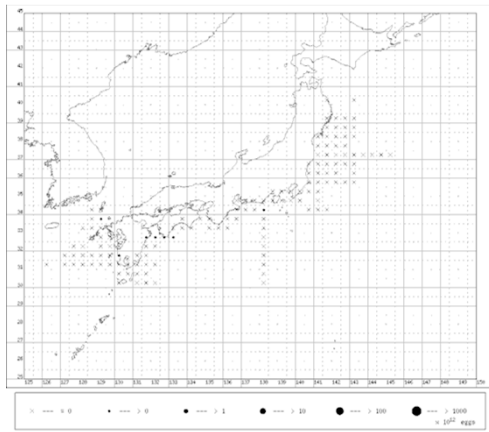
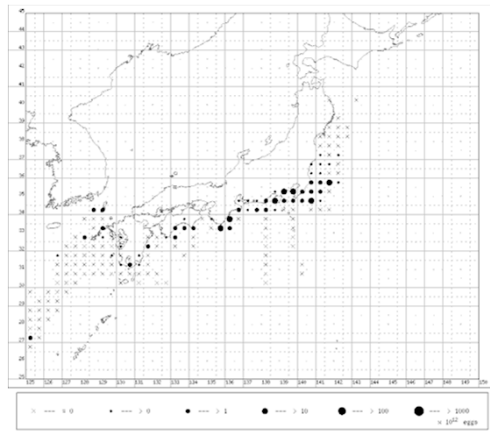


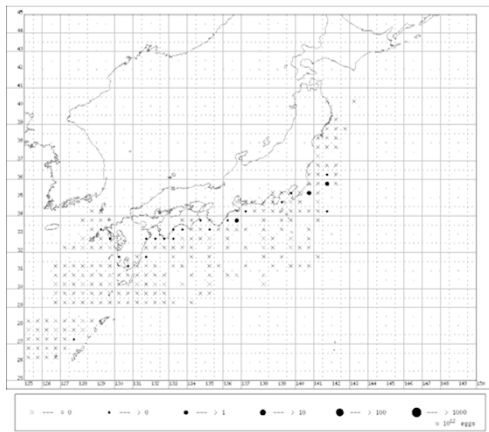
図3. 農林漁区大海区と卵稚仔調査定点



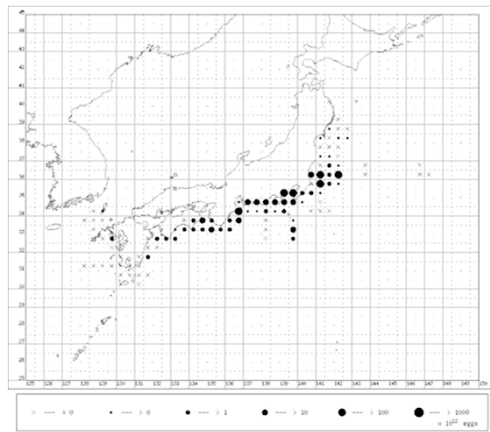
2012年1月



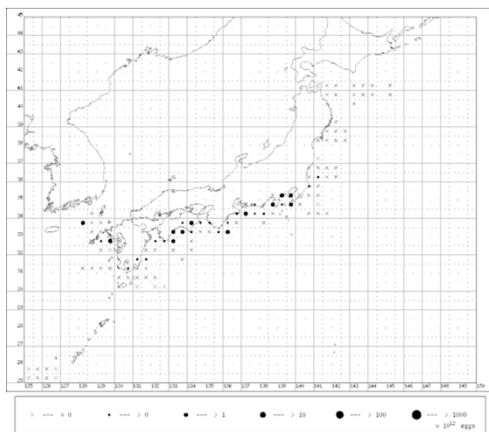
2012年4月



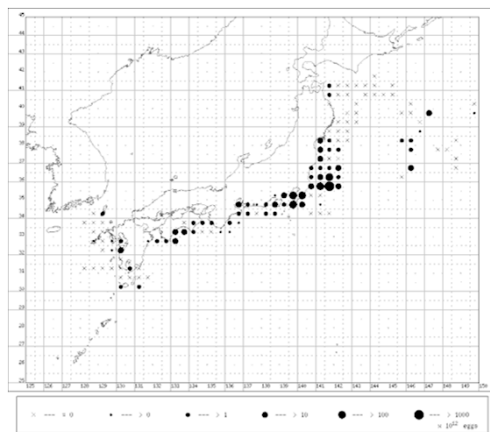
2012年2月



2012年5月

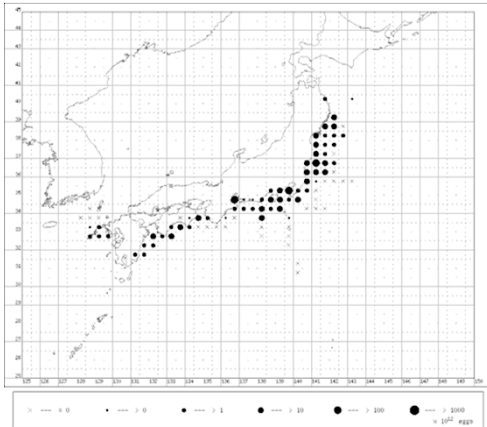


2012年3月

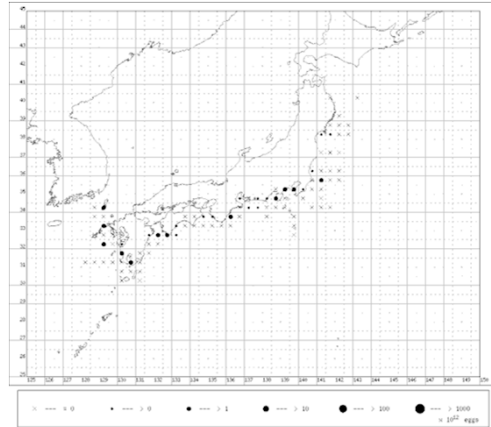


2012年6月

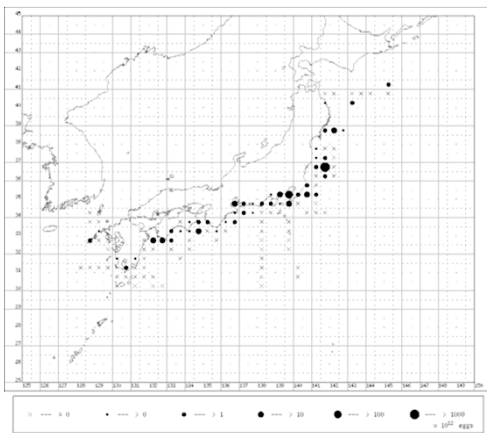
図4. 2012年1～12月のカタクチイワシ太平洋系群の産卵状況 (次頁に続く)



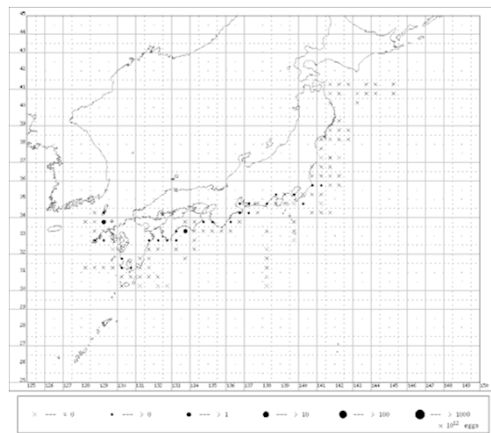
2012年7月



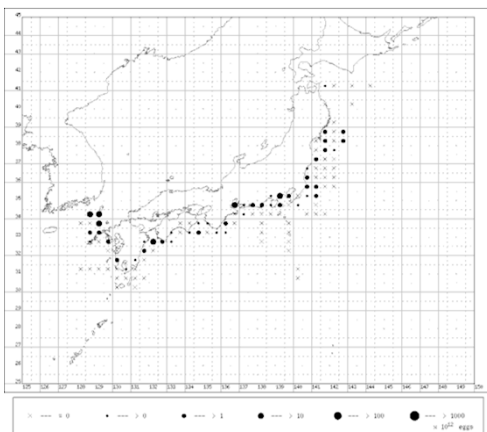
2012年10月



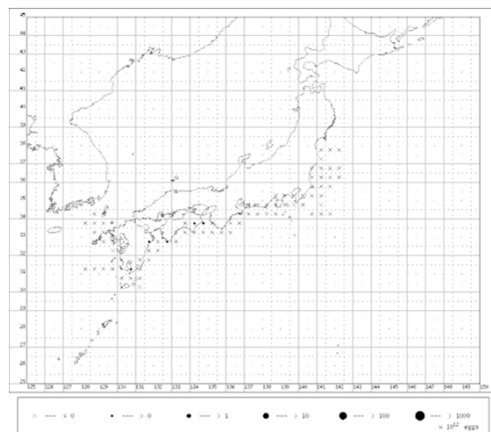
2012年8月



2012年11月



2012年9月



2012年12月

図4.. 2012年1～12月のカタクチイワシ太平洋系群の産卵状況 (続き)

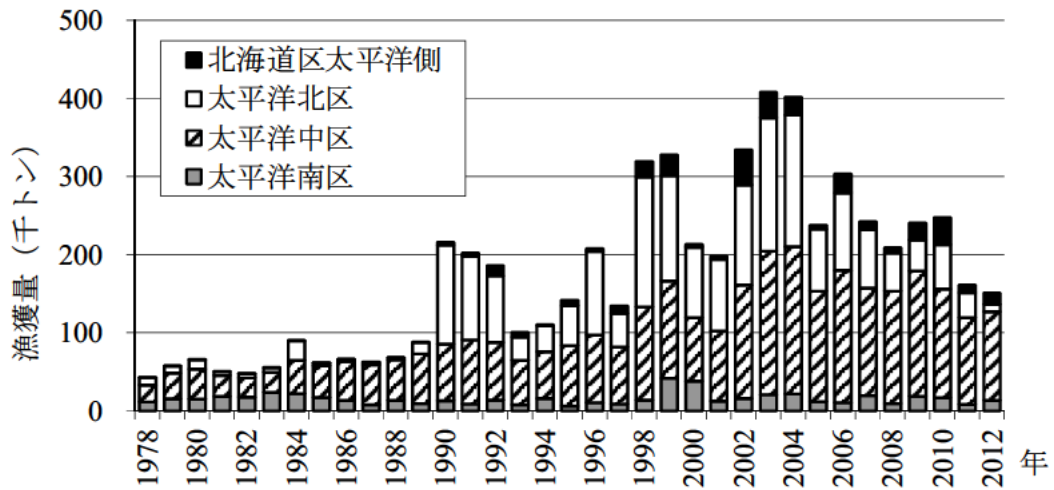


図5. カタクチイワシ太平洋系群の海区域別漁獲量（漁業養殖業生産統計年報）

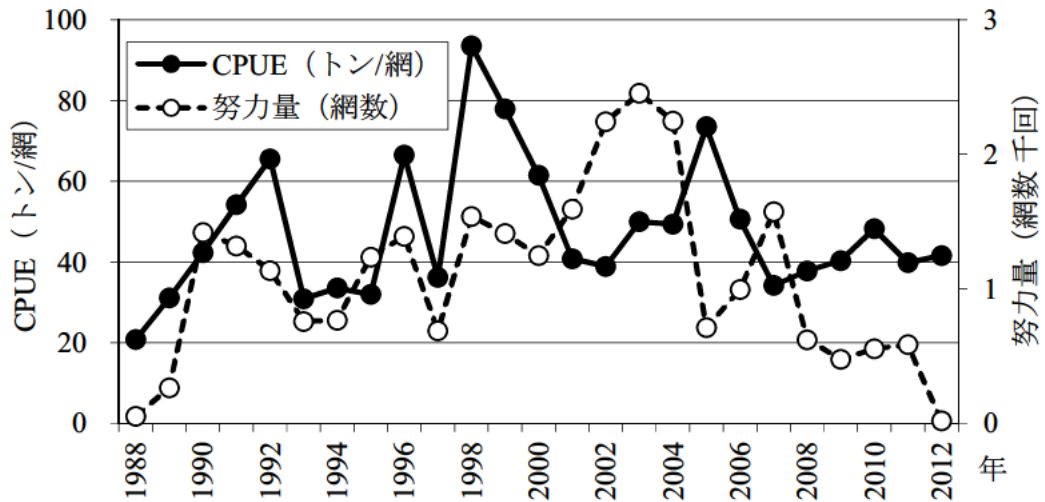


図6. 北部太平洋まき網によるカタクチイワシ太平洋系群の漁獲努力量当たり漁獲量（黒丸）と努力量（白丸）

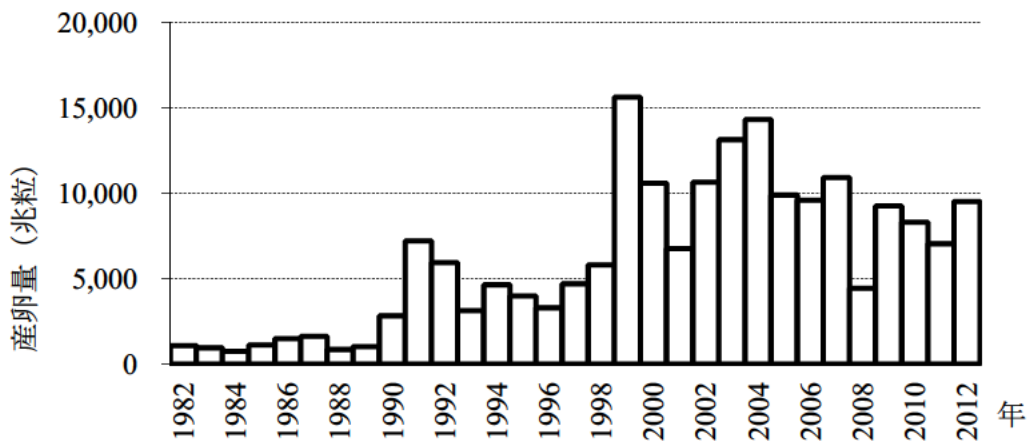


図7. カタクチイワシ太平洋系群の年間（1～12月）産卵量

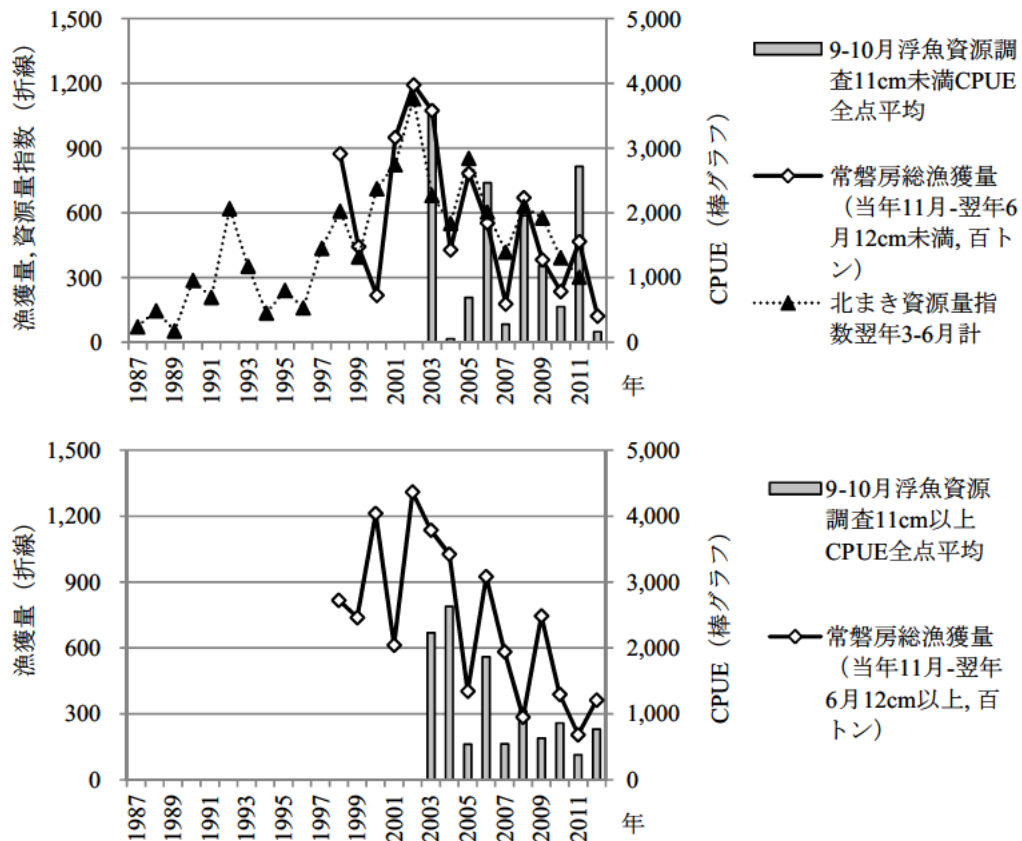


図8. 北西太平洋秋季浮魚資源調査における体長11cm未満/11cm以上のCPUE平均値(棒グラフ)、11月～6月漁期の常磐房総海域における体長12cm未満/12cm以上の漁獲量(◇)、および北部太平洋まき網の3～6月の資源量指数計(▲)の推移。上図は0歳魚に対する指数、下図は親魚に対する指数として年を揃え示した。

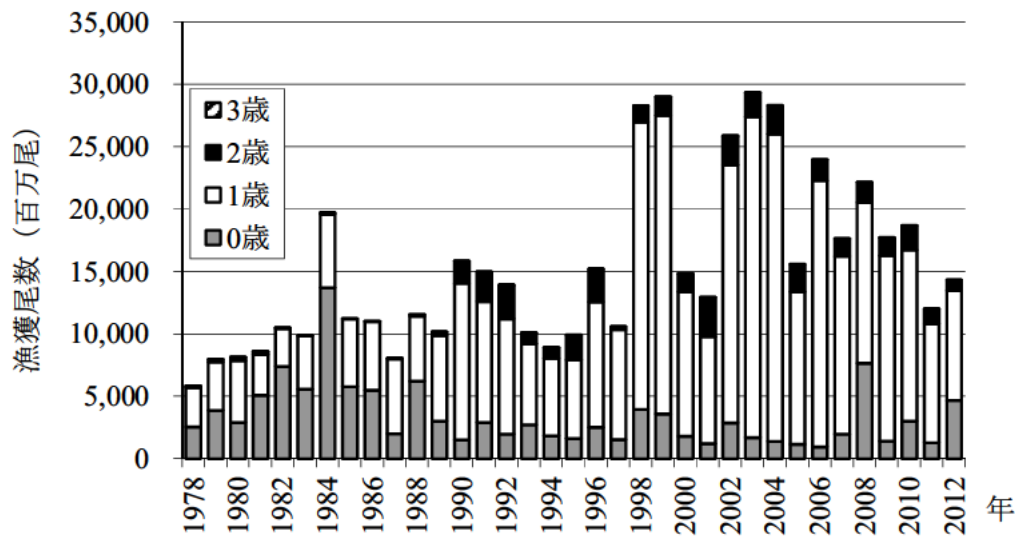


図9. カタクチイワシ太平洋系群の年齢別漁獲尾数

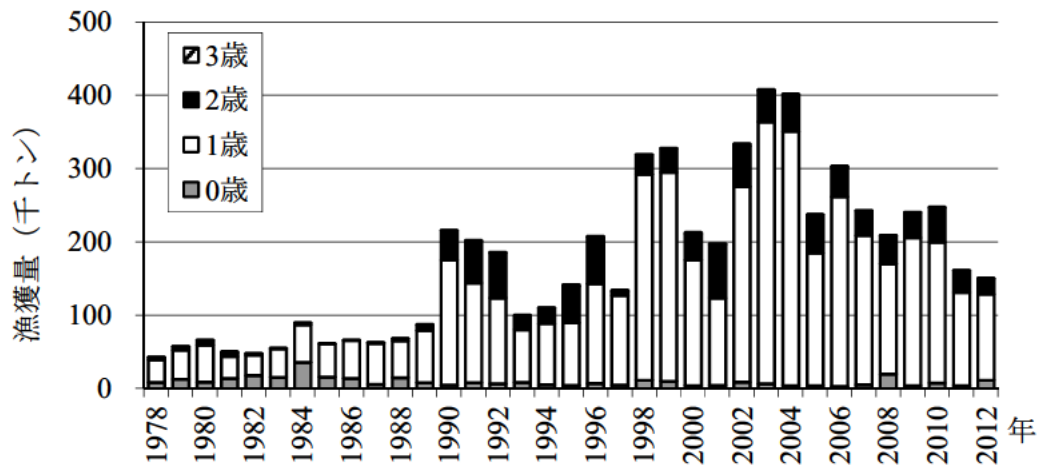


図10. カタクチイワシ太平洋系群の年齢別漁獲量

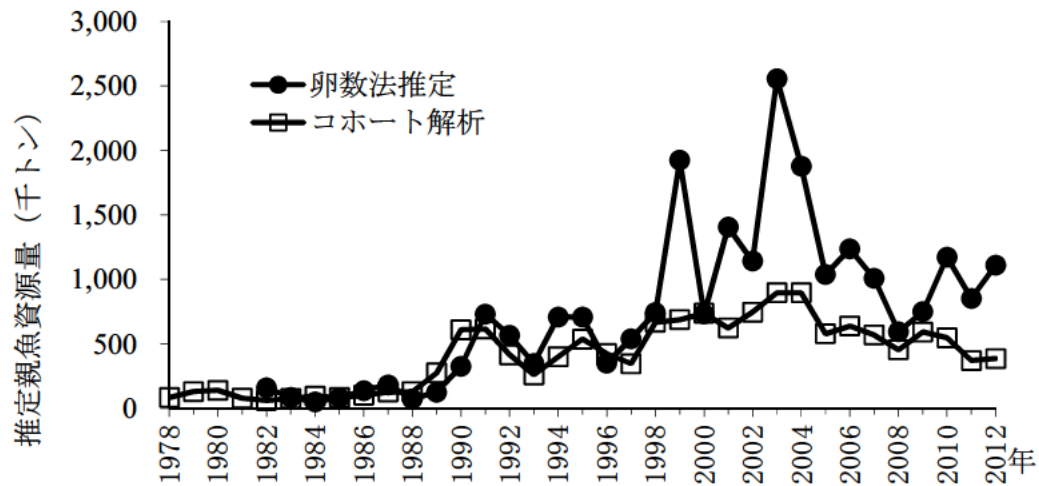


図11. カタクチイワシ太平洋系群の卵数法及びコホート解析による推定親魚量

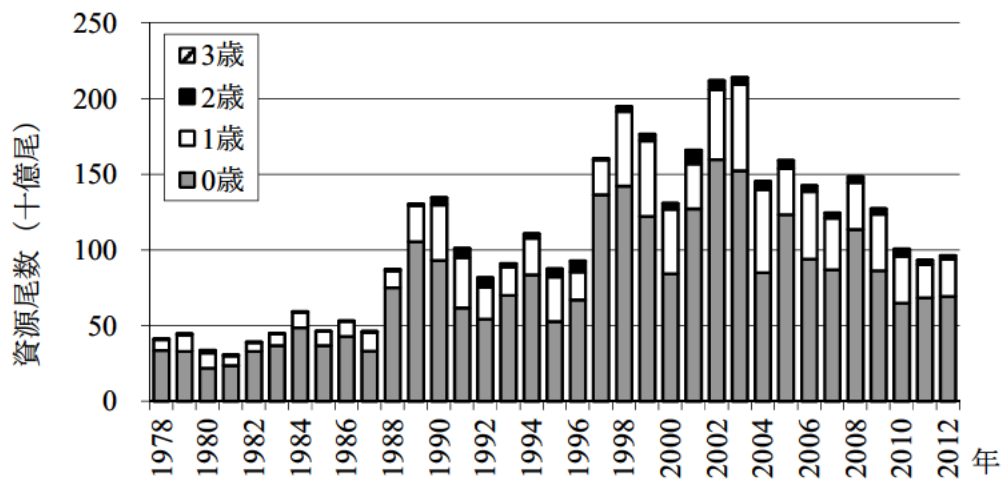


図12. カタクチイワシ太平洋系群の推定資源尾数

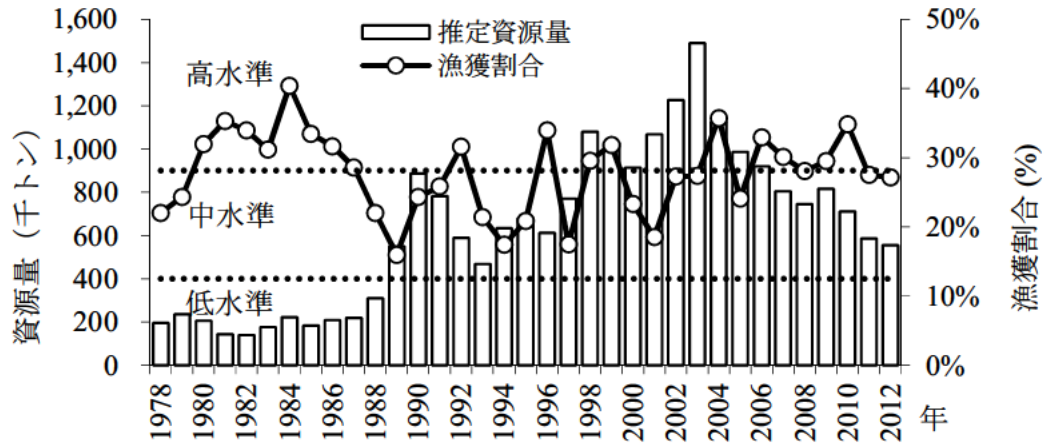


図13. カタクチイワシ太平洋系群の推定資源量と漁獲割合

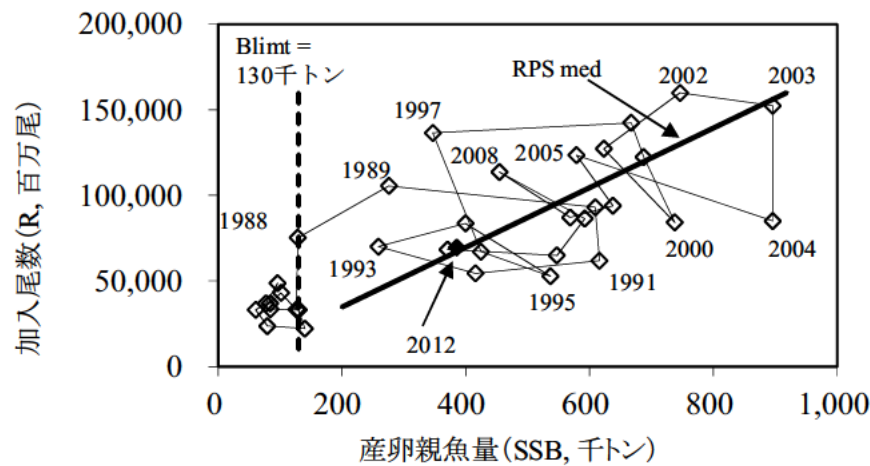


図14. カタクチイワシ太平洋系群の親魚量と加入量の関係
(RPSmed=174.1 は1989年以降での再生産関係の中央値)

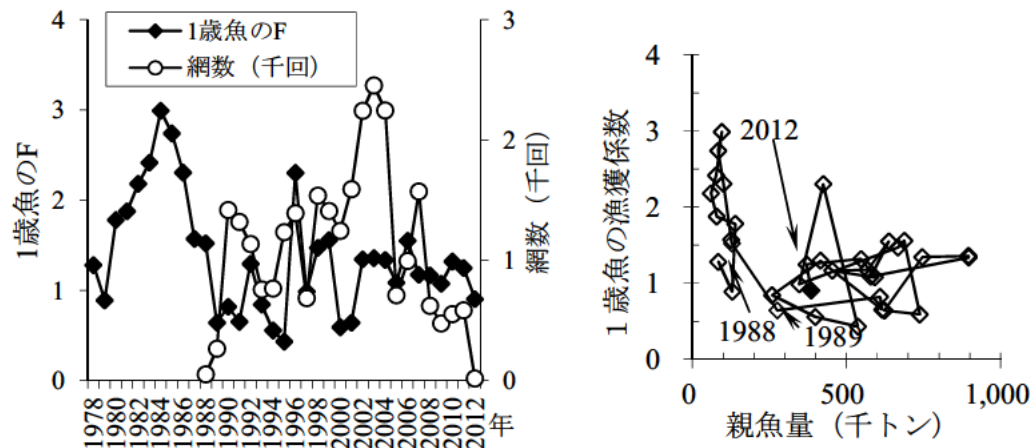


図15. カタクチイワシ太平洋系群の漁獲係数と北部太平洋まき努力量の推移 (左)、
親魚量と1歳魚の漁獲係数 (右)

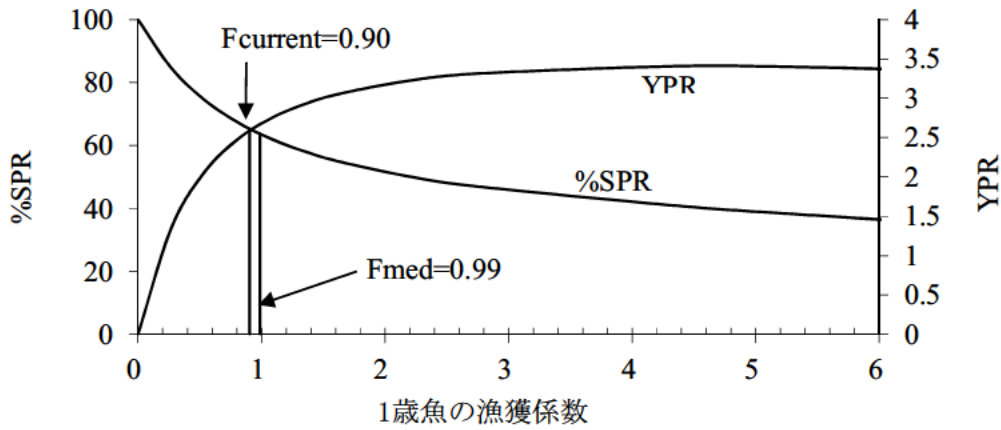


図16. カタクチイワシ太平洋系群の1歳魚に対する漁獲係数(F)と%SPR、YPRの関係

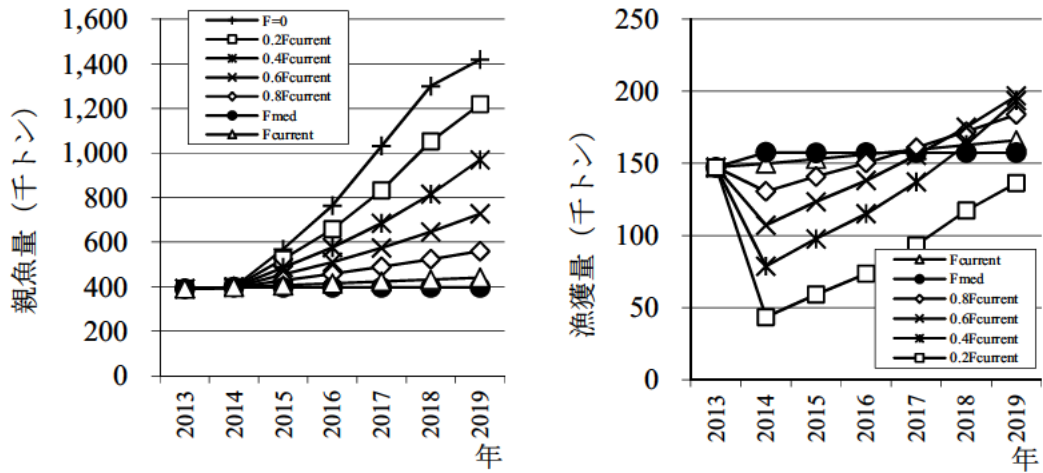


図17. カタクチイワシ太平洋系群の漁獲係数の変化による親魚量と漁獲量の推移

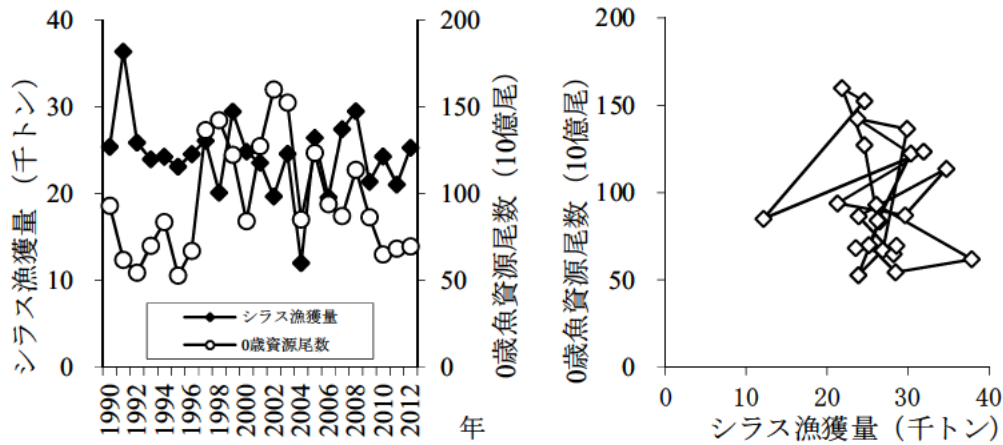


図18. 1990年以降のシラス漁獲量（宮崎～福島の太平洋南区～北区、生産統計年報に基づく漁獲量）と0歳魚漁獲尾数の推移（左）および相関関係（右）

表1. カタクチイワシ太平洋系群の大海区別産卵量と親魚量（2012年の計算例）

表1-1

産卵量（兆粒）					
月	I	II	III	IV	計
1	0.0	0.1	0.4	0.0	0.5
2	0.2	8.2	0.5	59.3	68.2
3	0.2	14.7	13.8	0.8	29.4
4	2.1	190.2	19.5	6.9	218.7
5	419.9	1328.4	82.2	0.0	1830.5
6	466.0	2777.8	95.9	15.1	3354.8
7	568.0	1070.0	100.2	5.2	1743.4
8	1599.4	346.6	149.1	1.9	2097.0
9	19.9	73.2	41.8	1.3	136.2
10	0.9	15.1	11.3	1.0	28.4
11	0.0	3.6	6.4	0.7	10.7
12	0.0	0.0	0.2	0.3	0.5
計	3076.6	5827.8	521.3	92.4	9518.2

表1-2

GSI（雌卵巣重量/生殖腺除去体重*100）					
月	I	II	III	IV	
1	0.9	1.6	1.6	1.6	
2	1.0	2.0	2.0	2.0	
3	2.3	3.5	3.5	3.5	
4	4.7	4.8	4.8	4.8	
5	5.9	4.7	4.7	4.7	
6	5.7	3.5	3.5	3.5	
7	4.0	3.4	3.4	3.4	
8	2.9	2.8	2.8	2.8	
9	2.3	2.2	2.2	2.2	
10	1.1	2.4	2.4	2.4	
11	1.0	1.8	1.8	1.8	
12	0.8	1.4	1.4	1.4	

表1-3

産卵量加重平均水温（℃）				
月	I	II	III	IV
1		17.1	19.2	
2	17.7	17.0	16.9	18.3
3	15.2	16.3	17.8	17.9
4	12.8	15.6	18.3	17.7
5	16.1	20.1	20.3	
6	17.5	21.4	22.9	24.1
7	20.1	23.5	25.6	23.9
8	22.7	26.5	28.4	27.7
9	25.0	26.7	27.8	27.6
10	20.7	24.1	24.8	25.3
11		20.6	22.0	22.3
12			19.5	20.3

表1-4

バッチ産卵数（粒/体重1g）				
月	I	II	III	IV
1		273	330	
2	200	303	302	341
3	200	414	457	460
4	230	505	578	563
5	297	620	624	
6	307	554	595	629
7	298	604	661	615
8	273	631	636	636
9	259	583	583	583
10	232	529	549	563
11		384	421	432
12			315	336

表1-5

産卵間隔（日）				
月	I	II	III	IV
1	5.3	3.7	3.2	7.7
2	2.1	3.7	3.7	3.4
3	2.5	3.8	3.5	3.5
4	3.0	4.0	3.4	3.5
5	2.4	2.9	2.9	7.7
6	2.1	2.6	2.3	2.0
7	1.6	2.2	1.7	2.1
8	1.2	1.5	1.0	1.2
9	1.0	1.4	1.2	1.2
10	1.5	2.0	1.8	1.7
11	5.3	2.8	2.5	2.4
12	5.3	7.7	3.1	2.9

表1-6

月別・海区別推定親魚量（千トン）					
月	I	II	III	IV	計
1	0	0	0	0	0
2	0	7	0	41	48
3	0	9	7	0	16
4	2	100	8	3	113
5	219	401	25	0	644
6	213	869	25	3	1,110
7	197	251	17	1	466
8	454	53	15	0	522
9	5	12	6	0	23
10	0	4	2	0	7
11	0	2	3	0	5
12	0	0	0	0	0

最多親魚量＝ 1,110 千トン

カタクチイワシ太平洋系群－19－

表2. カタクチイワシ太平洋系群の海区別漁獲量(トン) (最下段を除き生産統計年報準拠。最下段は主要港漁獲量。)(次頁に続く)

年	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991
太平洋南区	11,557	15,725	15,095	18,354	17,804	23,585	21,947	17,311	13,575	7,618	13,461	9,581	13,082	9,069
太平洋中区	21,626	32,644	38,782	27,218	24,572	25,957	42,780	40,506	49,941	51,406	52,080	63,455	72,619	82,142
太平洋北区	9,512	8,856	11,814	4,988	5,085	5,640	25,226	3,601	2,448	3,450	2,496	14,723	126,560	106,812
北海道区太平洋側	303	201	268	47	81	46	54	17	98	259	51	45	3,680	4,296
計	42,998	57,426	65,959	50,607	47,542	55,228	90,007	61,435	66,062	62,733	68,088	87,804	215,941	202,319
主要港漁獲量														

表3. カタクチイワシ太平洋系群の漁獲努力当たり漁獲量(太平洋北部大中型旋網投網、トン) (次頁に続く)

年	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991
漁獲量											1,057	8,198	59,993	71,394
努力量(網数)											51	264	1,419	1,319
CPUE(トン/網)											20.7	31.1	42.3	54.1
3月～6月資源量指数											73.3	147.0	53.9	287.8

表4. カタクチイワシ太平洋系群の産卵量(兆粒)および卵数法による推定親魚量(千トン) (次頁に続く)

年	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991
産卵量					1,082	959	746	1,116	1,499	1,628	853	1,017	2,827	7,215
親魚量					160	85	51	81	137	182	74	126	325	731

表5. 北西太平洋秋季調査におけるCPUEの全測点平均値(尾/網) (次頁に続く)

年	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991
体長<11cm														
体長≥11cm														

表6. 常磐・房総海域(千葉・茨城・福島)における前年11月～当年6月の漁獲量(主要港計、百トン) (続き)

年	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991
体長<12cm														
体長≥12cm														

表7. カタクチイワシ太平洋系群の年齢別漁獲尾数(百万尾) (次頁に続く)

年	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991
0歳	2,532	3,889	2,902	5,077	7,387	5,570	13,706	5,766	5,490	2,015	6,208	3,014	1,507	2,914
1歳	3,172	3,868	4,952	3,279	3,027	4,261	5,886	5,458	5,489	5,996	5,219	6,863	12,551	9,693
2歳	113	208	280	210	88	37	114	25	25	49	130	287	1,788	2,367
3歳	28	8	8	61	6	4	12	0	3	4	6	37	17	45
計	5,845	7,973	8,142	8,626	10,509	9,872	19,718	11,249	11,007	8,064	11,564	10,201	15,863	15,019

表8. カタクチイワシ太平洋系群の年齢別漁獲量(千トン) (次頁に続く)

年	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991
0歳	8	12	9	14	18	15	36	16	14	6	15	8	5	8
1歳	31	40	51	30	28	39	51	45	52	56	50	71	171	136
2歳	3	5	6	5	2	1	3	1	1	1	3	7	40	57
3歳	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
計	43	57	66	51	48	55	90	61	66	63	68	88	216	202

表9. カタクチイワシ太平洋系群の漁獲物の年齢別平均体重(グラム) (次頁に続く)

年	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991
0歳	3.3	3.2	3.0	2.7	2.4	2.7	2.6	2.7	2.5	2.8	2.4	2.6	3.0	2.7
1歳	9.8	10.3	10.2	9.1	9.1	9.2	8.7	8.3	9.4	9.3	9.6	10.4	13.6	14.0
2歳	23.9	23.5	23.2	24.7	23.3	23.3	24.5	23.0	25.8	24.3	22.3	25.5	22.5	24.2
3歳	31.2	32.5	30.6	31.2	32.9	30.8	31.3	41.8	33.4	31.9	29.3	34.0	30.1	32.5

表10. カタクチイワシ太平洋系群のコホート解析による年齢別資源尾数(百万尾) (次頁に続く)

年	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991
0歳	33,599	33,112	22,134	23,667	33,147	36,961	48,746	36,837	42,979	33,262	75,234	105,531	93,060	61,833
1歳	7,243	10,824	9,822	6,383	5,627	7,714	10,219	9,619	10,054	12,482	11,014	23,912	36,995	33,321
2歳	411	741	1,636	610	360	234	253	189	229	369	955	886	4,634	5,997
3歳	117	32	56	205	29	33	31	0	27	35	52	134	50	132
計	41,369	44,709	33,649	30,865	39,163	44,942	59,249	46,646	53,289	46,148	87,256	130,463	134,739	101,283

表11. カタクチイワシ太平洋系群のコホート解析による年齢別漁獲係数(次頁に続く)

年	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991
0歳	0.13	0.22	0.24	0.44	0.46	0.29	0.62	0.30	0.24	0.11	0.15	0.05	0.03	0.08
1歳	1.28	0.89	1.78	1.88	2.18	2.42	2.99	2.74	2.30	1.57	1.52	0.64	0.82	0.65
2歳	0.94	0.98	0.48	1.45	0.79	0.43	8.24	0.34	0.28	0.35	0.36	1.28	1.96	2.11
3歳	0.94	0.98	0.48	1.45	0.79	0.43	8.24	0.34	0.28	0.35	0.36	1.28	1.96	2.11
平均	0.83	0.77	0.75	1.30	1.06	0.89	5.02	0.93	0.78	0.60	0.60	0.81	1.19	1.24

カタクチイワシ太平洋系群－20－

表2. カタクチイワシ表2. カタクチイワシ太平洋系群の海区別漁獲量(トン) (続き)

年	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
太平洋南区	13,875	7,712	16,002	6,314	10,741	9,105	13,938	41,964	38,181	12,538	15,998	20,741	21,816	11,954
太平洋中区	73,791	57,101	59,842	77,267	86,365	72,876	119,330	124,592	81,333	90,150	144,967	183,802	188,584	141,565
太平洋北区	85,489	29,931	33,209	50,943	106,913	43,125	166,652	135,000	89,937	91,145	128,358	170,717	168,461	79,545
北海道区太平洋側	13,083	5,743	1,375	7,192	3,871	9,358	19,451	26,441	3,666	4,096	45,076	32,749	23,004	4,627
計	186,238	100,487	110,428	141,716	207,890	134,464	319,371	327,997	213,117	197,929	334,399	408,009	401,865	237,691
主要港漁獲量			67,414	73,136	138,341	102,787	239,154	281,904	192,631	185,586	304,870	393,871	372,823	211,762

表3. カタクチイワシ表3. カタクチイワシ太平洋系群の漁獲努力当たり漁獲量(太平洋北部大中型旋網投網、トン) (続き)

年	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
漁獲量	74,394	23,366	25,637	39,439	92,344	24,776	143,808	109,905	76,550	64,888	87,136	122,550	110,836	52,187
努力量(網数)	1,135	757	765	1,235	1,390	686	1,538	1,411	1,246	1,592	2,242	2,453	2,247	710
CPUE(トン/網)	65.5	30.9	33.5	31.9	66.4	36.1	93.5	77.9	61.4	40.8	38.9	50.0	49.3	73.5
3月～6月資源量指数	208.7	620.3	353.3	135.9	241.1	160.0	436.5	608.1	396.7	712.1	823.9	1129.2	680.8	551.2

表4. カタクチイワシ表4. カタクチイワシ太平洋系群の産卵量(兆粒)および卵数法による推定親魚量(千トン) (続き)

年	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
産卵量	5,925	3,123	4,644	3,988	3,282	4,704	5,797	15,623	10,582	6,750	10,643	13,134	14,313	9,882
親魚量	568	349	709	708	351	540	743	1,924	732	1,407	1,143	2,556	1,878	1,038

表5. 北西太平洋表5. 北西太平洋秋季調査におけるCPUEの全測点平均値(尾/網) (続き)

年	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
体長<11cm												3,631	59	697
体長≥11cm												2,232	2,628	537

表6. 常磐・房総海表6. 常磐・房総海域(千葉・茨城・福島)における前年11月～当年6月の漁獲量(主要港計、百トン) (続き)

年	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
体長<12cm								873	444	218	949	1,193	1,074	429
体長≥12cm								817	738	1,212	613	1,310	1,136	1,027

表7. カタクチイワシ表7. カタクチイワシ太平洋系群の年齢別漁獲尾数(百万尾) (続き)

年	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
0歳	1,975	2,733	1,817	1,615	2,510	1,542	3,960	3,605	1,808	1,213	2,869	1,695	1,400	1,151
1歳	9,241	6,496	6,244	6,292	10,065	8,803	23,018	23,918	11,573	8,577	20,659	25,718	24,618	12,225
2歳	2,686	859	850	1,968	2,636	212	1,307	1,495	1,433	3,140	2,284	1,909	2,299	2,198
3歳	53	28	10	73	45	67	15	17	54	43	120	53	13	20
計	13,955	10,116	8,921	9,949	15,256	10,623	28,300	29,035	14,868	12,973	25,932	29,375	28,330	15,594

表8. カタクチイワシ表8. カタクチイワシ太平洋系群の年齢別漁獲量(千トン) (続き)

年	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
0歳	6	8	5	4	7	5	11	10	4	4	9	7	4	4
1歳	117	72	84	85	136	122	281	285	171	119	267	357	347	181
2歳	61	19	21	50	64	5	27	33	36	73	56	42	51	52
3歳	2	1	0	2	1	2	0	1	2	1	4	2	0	1
計	186	100	110	142	208	134	319	328	213	198	334	408	402	238

表9. カタクチイワシ表9. カタクチイワシ太平洋系群の漁獲物の年齢別平均体重(グラム) (続き)

年	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
0歳	3.2	3.0	2.8	2.7	2.8	3.1	2.9	2.8	2.1	3.5	3.0	3.9	2.7	3.3
1歳	12.7	11.1	13.4	13.5	13.5	13.9	12.2	11.9	14.8	13.9	12.9	13.9	14.1	14.8
2歳	22.7	22.5	25.1	25.4	24.1	24.4	20.4	21.9	25.1	23.3	24.3	22.2	22.0	23.8
3歳	29.9	30.1	33.9	33.1	32.1	32.3	27.0	30.9	38.4	30.4	31.5	29.1	30.7	31.5

表10. カタクチイワシ表10. カタクチイワシ太平洋系群のコホート解析による年齢別資源尾数(百万尾) (続き)

年	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
0歳	54,401	70,051	83,640	52,788	67,102	136,493	142,335	122,372	84,189	127,248	159,892	152,417	85,020	123,475
1歳	20,980	18,815	24,113	29,667	18,440	23,163	49,278	49,960	42,832	29,875	46,077	57,081	55,043	30,428
2歳	6,379	2,113	2,982	5,084	7,098	679	3,182	4,167	3,872	8,737	5,788	4,420	5,400	5,317
3歳	147	81	41	220	142	249	42	55	169	138	353	142	35	57
計	81,907	91,061	110,775	87,759	92,782	160,584	194,837	176,555	131,063	165,999	212,110	214,061	145,498	159,277

表11. カタクチイワシ表11. カタクチイワシ太平洋系群のコホート解析による年齢別漁獲係数(続き)

年	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
0歳	0.06	0.07	0.04	0.05	0.06	0.02	0.05	0.05	0.04	0.02	0.03	0.02	0.03	0.02
1歳	1.30	0.84	0.56	0.43	2.30	0.98	1.47	1.56	0.59	0.64	1.34	1.36	1.34	1.09
2歳	2.76	2.35	1.01	1.98	1.75	1.19	2.46	1.60	1.73	1.61	2.11	3.25	2.95	2.53
3歳	2.76	2.35	1.01	1.98	1.75	1.19	2.46	1.60	1.73	1.61	2.11	3.25	2.95	2.53
平均	1.72	1.40	0.65	1.11	1.47	0.84	1.61	1.20	1.02	0.97	1.40	1.97	1.81	1.54

表2. カタクチイワシ表2. カタクチイワシ太平洋系群の海区別漁獲量(トン) (続き)

年	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
太平洋南区	10,722	19,513	9,301	18,933	16,882	8,240	13,473
太平洋中区	169,385	138,030	144,075	160,340	139,307	110,931	113,572
太平洋北区	99,111	74,488	48,815	39,853	56,581	32,119	9,551
北海道区太平洋側	24,209	10,437	6,891	21,765	34,859	10,050	14,126
計	303,427	242,468	209,082	240,891	247,629	161,340	150,722
主要港漁獲量	268,170	205,722	178,283	204,451	221,013	139,566	145,154

表3. カタクチイワシ表3. カタクチイワシ太平洋系群の漁獲努力当たり漁獲量(太平洋北部大中型旋網投網、トン) (続き)

年	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
漁獲量	50,277	53,686	23,460	19,189	26,662	23,235	707
努力量(網数)	994	1,572	621	476	553	584	17
CPUE(トン/網)	50.6	34.2	37.8	40.3	48.2	39.8	41.6
3月～6月資源量指数	853.1	604.2	418.4	630.2	577.6	392.5	302.7

表4. カタクチイワシ表4. カタクチイワシ太平洋系群の産卵量(兆粒)および卵数法による推定親魚量(千トン) (続き)

年	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
産卵量	9,579	10,909	4,427	9,246	8,297	7,042	9,518
親魚量	1,236	1,008	594	750	1,174	852	1,110

表5. 北西太平洋表5. 北西太平洋秋季調査におけるCPUEの全測点平均値(尾/網) (続き)

年	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
体長<11cm	2,467	277	1,961	1,183	552	2,717	163
体長≥11cm	1,867	543	1,039	632	858	379	766

表6. 常磐・房総海表6. 常磐・房総海域(千葉・茨城・福島)における前年11月～当年6月の漁獲量(主要港計、百トン) (続き)

年	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
体長<12cm	783	553	178	670	383	235	467	121
体長≥12cm	403	925	583	284	746	389	205	362

表7. カタクチイワシ表7. カタクチイワシ太平洋系群の年齢別漁獲尾数(百万尾) (続き)

年	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
0歳	943	1,974	7,664	1,424	2,994	1,282	4,687
1歳	21,366	14,244	12,870	14,858	13,737	9,537	8,798
2歳	1,654	1,413	1,612	1,443	1,959	1,206	851
3歳	32	7	25	19	24	21	23
計	23,995	17,638	22,171	17,744	18,713	12,046	14,359

表8. カタクチイワシ表8. カタクチイワシ太平洋系群の年齢別漁獲量(千トン) (続き)

年	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
0歳	3	5	20	4	8	4	11
1歳	259	204	150	202	192	127	117
2歳	41	33	38	35	47	30	21
3歳	1	0	1	1	1	1	1
計	303	242	209	241	248	161	151

表9. カタクチイワシ表9. カタクチイワシ太平洋系群の漁獲物の年齢別平均体重(グラム) (続き)

年	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
0歳	3.0	2.7	2.6	2.6	2.5	3.2	2.4
1歳	12.1	14.3	11.7	13.6	14.0	13.3	13.4
2歳	24.7	23.6	23.9	24.0	24.0	24.5	24.8
3歳	34.1	32.5	33.2	32.1	32.6	32.3	32.4

表10. カタクチイワシ表10. カタクチイワシ太平洋系群のコホート解析による年齢別資源尾数(百万尾) (続き)

年	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
0歳	93,906	87,093	113,698	86,419	64,931	68,345	69,533
1歳	44,726	33,974	30,842	37,179	30,928	22,071	24,365
2歳	3,779	3,495	3,859	3,540	4,665	3,046	2,335
3歳	86	20	71	55	66	62	73
計	142,497	124,582	148,470	127,193	100,592	93,524	96,306

表11. カタクチイワシ表11. カタクチイワシ太平洋系群のコホート解析による年齢別漁獲係数(続き)

年	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
0歳	0.02	0.04	0.12	0.03	0.08	0.03	0.12
1歳	1.55	1.18	1.16	1.08	1.32	1.25	0.90
2歳	3.64	2.30	2.66	2.38	2.72	2.13	1.67
3歳	3.64	2.30	2.66	2.38	2.72	2.13	1.67
平均	2.21	1.45	1.65	1.46	1.71	1.38	1.09

カタクチイワシ太平洋系群－22－

表12. カタクチイワシ太平洋系群のコホート解析による資源量(千トン)

年	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991
0歳	111	106	66	64	80	100	127	99	107	93	181	274	279	167
1歳	71	111	100	58	51	71	89	80	95	116	106	249	503	466
2歳	10	17	38	15	8	5	6	4	6	9	21	23	104	145
3歳	4	1	2	6	1	1	1	0	1	1	2	5	2	4
計	195	236	206	143	140	177	223	184	209	219	309	550	888	783
親魚量	84	130	140	80	61	77	96	84	101	126	129	276	609	616
RPS(尾/kg)	397.9	254.8	158.3	297.6	547.5	477.4	507.4	437.5	424.2	263.6	585.2	382.6	152.8	100.4
漁獲割合	22.0%	24.3%	32.0%	35.3%	33.9%	31.2%	40.4%	33.5%	31.6%	28.6%	22.0%	16.0%	24.3%	25.8%

年	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
0歳	174	210	234	143	188	423	413	343	177	445	480	594	230	407
1歳	266	209	323	401	249	322	601	595	634	415	594	793	776	450
2歳	145	48	75	129	171	17	65	91	97	204	141	98	119	127
3歳	4	2	1	7	5	8	1	2	7	4	11	4	1	2
計	590	469	634	679	612	770	1,080	1,030	914	1,068	1,226	1,490	1,126	986
親魚量	416	259	399	537	425	347	667	687	738	623	746	896	896	579
RPS(尾/kg)	130.9	270.6	209.4	98.3	158.1	393.8	213.3	178.0	114.1	204.2	214.3	170.2	94.9	213.4
漁獲割合	32%	21%	17%	21%	34%	17%	30%	32%	23%	19%	27%	27%	36%	24%

年	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
0歳	283	236	291	224	164	215	170
1歳	541	485	360	506	433	294	325
2歳	93	82	92	85	112	75	58
3歳	3	1	2	2	2	2	2
計	921	805	745	816	711	586	555
親魚量	638	569	454	592	547	371	385
RPS(尾/kg)	147.3	153.2	250.2	146.0	118.7	184.4	180.4
漁獲割合	33%	30%	28%	30%	35%	28%	27%

表13. Flimt=Fmedを適用した場合の将来予測

表13 - 1. カタクチイワシ太平洋系群の平均体重（2008～2012年）、自然死亡係数

年	平均体重(g)	自然死亡係数
0歳	2.7	1
1歳	13.2	1
2歳	24.2	1.6
3歳	32.5	1.9

表13 - 2. カタクチイワシ太平洋系群の漁獲係数

年	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	選択率
0歳	0.12	0.06	0.06	0.06	0.06	0.06	0.06	0.06	0.04
1歳	0.90	0.90	0.99	0.99	0.99	0.99	0.99	0.99	0.54
2歳	1.67	1.67	1.82	1.82	1.82	1.82	1.82	1.82	1.00
3歳	1.67	1.67	1.82	1.82	1.82	1.82	1.82	1.82	1.00
平均	1.09	1.07	1.17	1.17	1.17	1.17	1.17	1.17	

2013年の漁獲係数は過去5年平均、2014年以降は選択率が2013年と同じと仮定した。

表13 - 3. カタクチイワシ太平洋系群の資源尾数（百万尾）

年	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
0歳	69,533	67,994	69,207	69,061	69,084	69,080	69,081	69,081
1歳	24,365	22,737	23,586	23,876	23,826	23,834	23,832	23,833
2歳	2,335	3,627	3,387	3,231	3,271	3,264	3,265	3,265
3歳	73	89	138	111	105	107	107	107
合計	96,306	94,447	96,318	96,278	96,286	96,285	96,285	96,285

※ 予測加入尾数（百万尾）＝174.1×親魚量（千トン）。

表13 - 4. カタクチイワシ太平洋系群の資源量（千トン）

年	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
0歳	170	180	184	183	183	183	183	183
1歳	325	300	311	315	314	314	314	314
2歳	58	88	82	78	79	79	79	79
3歳	2	3	4	4	3	3	3	3
合計	555	571	581	580	580	580	580	580
親魚量	385	391	398	397	397	397	397	397

表13 - 5. カタクチイワシ太平洋系群の漁獲尾数（百万尾）

年	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
0歳	4,687	2,354	2,611	2,606	2,607	2,606	2,606	2,606
1歳	8,798	8,207	8,978	9,089	9,070	9,073	9,072	9,072
2歳	851	1,322	1,276	1,217	1,232	1,229	1,230	1,230
3歳	23	28	45	36	34	35	35	35
合計	14,359	11,911	12,910	12,947	12,942	12,943	12,943	12,943

表13 - 6. カタクチイワシ太平洋系群の漁獲量（千トン）

年	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
0歳	11	6	7	7	7	7	7	7
1歳	117	108	118	120	120	120	120	120
2歳	21	32	31	29	30	30	30	30
3歳	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	151	147	158	157	157	157	157	157
漁獲割合	27.1%	25.8%	27.1%	27.1%	27.1%	27.1%	27.1%	27.1%

表14. $F_{target} = 0.8F_{med}$ を適用した場合の将来予測

表14 - 1. カタクチイワシ太平洋系群の平均体重（2008～2012年）、自然死亡係数

年	平均体重(g)	自然死亡係数
0歳	2.7	1
1歳	13.2	1
2歳	24.2	1.6
3歳	32.5	1.9

表14 2. カタクチイワシ太平洋系群の漁獲係数

年	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	選択率
0歳	0.12	0.06	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.04
1歳	0.90	0.90	0.79	0.79	0.79	0.79	0.79	0.79	0.54
2歳	1.67	1.67	1.46	1.46	1.46	1.46	1.46	1.46	1.00
3歳	1.67	1.67	1.46	1.46	1.46	1.46	1.46	1.46	1.00
平均	1.09	1.07	0.94	0.94	0.94	0.94	0.94	0.94	

2013年の漁獲係数は過去5年平均とし、以降は F_{limit} に0.8を乗算した。

表14 3. カタクチイワシ太平洋系群の資源尾数 (百万尾)

年	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
0歳	69,533	67,994	69,207	73,021	76,649	80,524	84,583	88,850
1歳	24,365	22,737	23,586	24,185	25,518	26,785	28,139	29,558
2歳	2,335	3,627	3,387	3,937	4,037	4,259	4,471	4,697
3歳	73	89	138	159	185	190	200	210
合計	96,306	94,447	96,318	101,302	106,388	111,758	117,394	123,315

※ 予測加入尾数 (百万尾) = $174.1 \times \text{親魚量 (千トン)}$

表14 4. カタクチイワシ太平洋系群の資源量 (千トン)

年	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
0歳	170	180	184	194	203	214	224	236
1歳	325	300	311	319	336	353	371	390
2歳	58	88	82	95	98	103	108	114
3歳	2	3	4	5	6	6	7	7
合計	555	571	581	613	644	676	710	746
親魚量	385	391	398	419	440	463	486	510

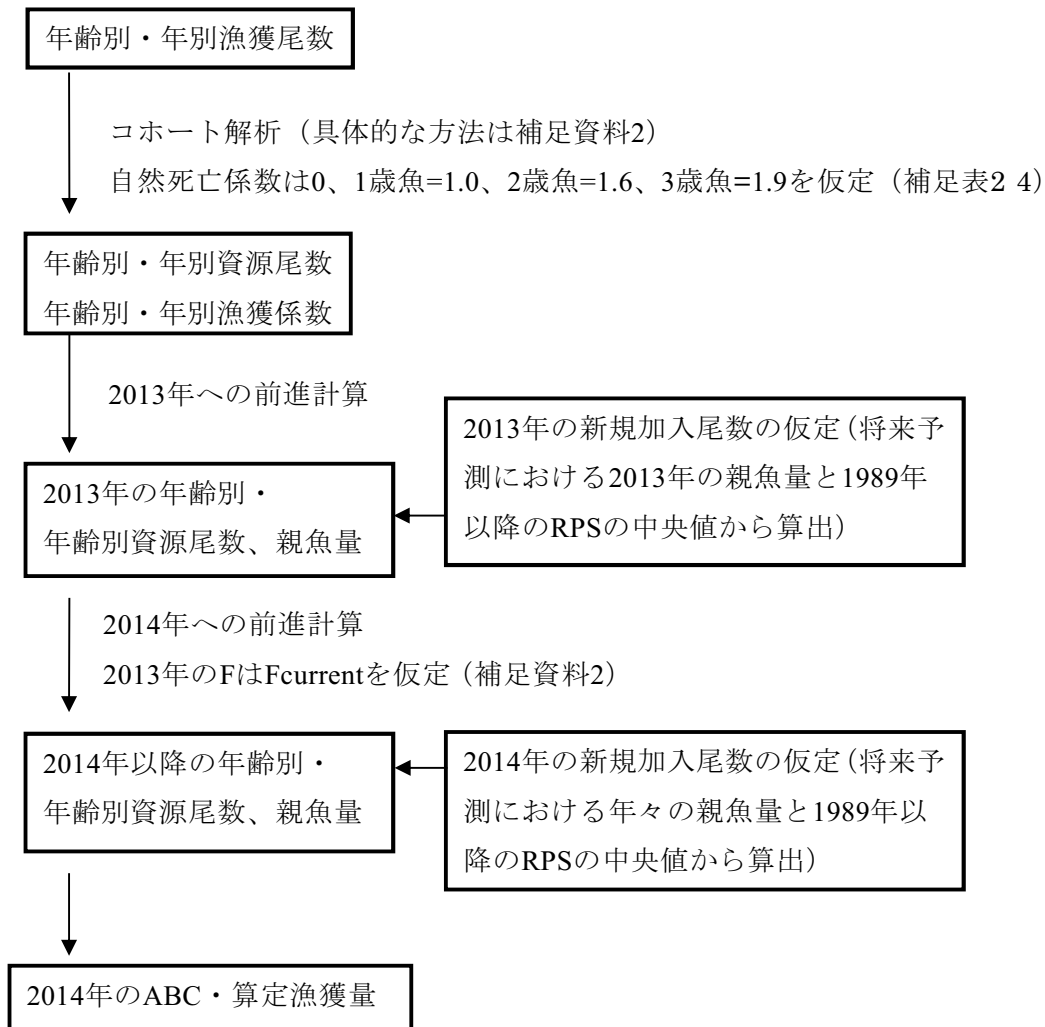
表14 5. カタクチイワシ太平洋系群の漁獲尾数 (百万尾)

年	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
0歳	4,687	2,354	2,102	2,218	2,328	2,446	2,569	2,699
1歳	8,798	8,207	7,815	8,013	8,455	8,875	9,323	9,794
2歳	851	1,322	1,168	1,357	1,392	1,468	1,541	1,619
3歳	23	28	41	47	55	56	59	62
合計	14,359	11,911	11,126	11,636	12,230	12,845	13,494	14,174

表14 6. カタクチイワシ太平洋系群の漁獲量 (千トン)

年	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
0歳	11	6	6	6	6	6	7	7
1歳	117	108	103	106	111	117	123	129
2歳	21	32	28	33	34	36	37	39
3歳	1	1	1	2	2	2	2	2
合計	151	147	138	146	153	161	169	178
漁獲割合	27.1%	25.8%	23.8%	23.8%	23.8%	23.8%	23.8%	23.8%

補足資料1 (フロー図)



補足資料2

(1) 資源量調査

産卵調査として、沿岸では各都府県試験研究機関により周年、沖合では水産研究所により2～3月（黒潮域）および5～6月（黒潮親潮移行域）に、改良型ノルパックネット（口径45 cm、円筒円錐形、目合0.335 mm）の鉛直曳採集を実施し、得られた結果をフレスコシステムにデータを入力している。このデータを基に、卵の採集量と鋼索長、鋼索傾角、濾水計回転数、水温などにより採集点毎の卵分布密度を求め、海域面積で引き延ばして月毎の産卵量を計算した（森ほか 1988、菊地・小西 1990、石田・菊地 1992、銭谷ほか 1995、久保田ほか 1999）。

また、太平洋側各道府県試験研究機関により主要港の水揚量と体長組成、精密測定結果などの生物情報が調査され、得られた結果がフレスコシステムに入力されている。体長体重関係・成熟度指数等の情報はフレスコシステムに入力された情報を基に計算した。

(2) 資源量推定手法

卵数法

産卵調査により求めた産卵量に、水温ならびに生殖腺重量指数を考慮した卵数法を適用して親魚量を計算した。Takasuka *et al.* (2005) では沿岸産卵群と沖合産卵群の産卵生態を明確に区別できたことから、農林漁区大海区毎にI区を沖合産卵群、II～IV区を沿岸産卵群と仮定して、大海区別に親魚量を求め、合計親魚量が最多となる月の親魚量をその年の推定親魚量とした（表 1、図 11）。月別、海区别水温は産卵調査時の海洋観測結果から卵数加重水温を求めて使用した。生殖腺重量指数は月別海区别の精密測定結果から、生物学的最小形とした体長8 cm以上の個体について平均した値を用いた。

月の親魚量 $(\text{月の産卵量} / 1 \text{ g当りバッチ産卵数}) \times \text{産卵間隔} / \text{月の日数} / \text{雌割合}$
 性比 1 : 1、バッチ産卵数 雌1個体1回当たり産卵数

沖合域（I区 水温範囲: 8.0～20.2度）：

1 g当りバッチ産卵数 $30.4 + 11.7 \times \text{水温} + 23.5 \times \text{生殖腺重量指数}$
 産卵間隔 $5.30 - 0.182 \times \text{水温}$

沿岸域（II区～IV区 水温範囲: 15.0～26.7度）：

1 g当りバッチ産卵数 $338.7 + 27.4 \times \text{水温} + 87.3 \times \text{生殖腺重量指数}$
 産卵間隔 $7.65 - 0.234 \times \text{水温}$

コホート解析

太平洋側各道府県主要港の水揚量と体長組成ならびに精密測定結果から求めた体長体重関係から月毎に体長階級別漁獲尾数を求め、体長と年齢の関係（補足表2-1）に基づいて主要港における年齢別漁獲尾数を計算した。寿命は4歳（3歳の最後で死亡）と仮定し、年齢別の尾数比を漁業養殖業生産統計年報の値に合うように引き延ばして系群全体の年

齢別漁獲尾数を求めた（表 7）。

補足表2 1. カタクチイワシ太平洋系群の体長

0歳	～7.9cm
1歳	8.0～12.9cm
2歳	13.0～14.4cm
3歳	14.5cm～

年齢別漁獲尾数（ y 年の a 歳魚、 $C_{a,y}$ ）に基づいて、Pope (1972) の式により y 年の a 歳魚の資源尾数（ $N_{a,y}$ ）を計算した（表 8）。

$$\begin{aligned}
 & \text{(2011年までの資源尾数)} \quad (0 \sim 2 \text{歳魚}) \quad N_{a,y} = N_{a+1,y+1} e^{M_a} + C_{a,y} e^{M_a/2} \\
 & \quad \quad \quad (3 \text{歳魚}) \quad N_{3,y} = N_{2,y} \frac{C_{3,y}}{C_{2,y}} e^{(M_3 - M_2)/2} \\
 & \text{(2011年までの漁獲係数)} \quad (0 \text{歳} \sim 2 \text{歳魚}) \quad F_{a,y} = -\ln(1 - C_{a,y} e^{M_a/2} / N_{a,y}) \\
 & \quad \quad \quad (3 \text{歳魚}) \quad F_{3,y} = F_{2,y}
 \end{aligned}$$

$N_{a,y}$ は y 年の a 歳魚の資源尾数、 $C_{a,y}$ は同様に漁獲尾数、 M は自然死亡係数（補足表2-2）、 F は漁獲係数。

ターミナルF（2012年F）の設定

0歳魚：2012年の0歳魚は、秋季の東海海域において多獲され、漁獲尾数は最近5年間の中では多かった。しかし、その後の北部海域での漁獲状況は2011年級群に比べ多くない。この状況は2008年級群0歳魚時の漁況に類似する。2008年級群は0歳魚時に東海海域で多獲されて漁獲尾数が高く推定されたが、その後の漁獲は少なく、近年では0歳のFが高かったと判断されている。したがって2012年級群の漁獲状況は2008年に類似すると判断し、2012年0歳魚の漁獲係数には、2008年0歳魚の漁獲係数を適用した。

1歳以上：2012年1月以降、大中型1そうまき網による漁獲量および努力量が例年に比べ大きく減少し（図6）。2012年の北部まき網漁業による漁獲量は2011年の20%にとどまった（北部まき網提供）。この時期は例年1歳魚以上が主体となる。分布回遊状況調査結果（JAFIC提供）による北部まき網漁業のCPUEは近年の平均値と同程度であること、北部まき網漁業以外のまき網（沿岸2そうまき）の漁獲量は大きく減少していないことから、資源の減少によるものではなく社会的要因と考えられる。仮に近年の平均的な努力量がかけられた場合、2012年は2万トン程度の漁獲が控えられたと考えられ、この点を考慮しない場合、2011年級群1歳魚の資源量を過少に推定する可能性が高いと判断した。このため、1歳魚以上のFについては、過去5年平均のFから以下の考え方で削減することとした。

常磐海域のまき網漁業の努力量の削減率を、千葉県沿岸2そうまき標本船（3ヶ統）の網数と漁獲量（千葉県提供）、分布回遊状況調査結果に基づく北部大中型まき網による網数と漁獲量（JACIF提供）、千葉県～茨城県の主要港水揚量（千葉県、茨城県提供）をもとに推定した。

北部まき網以外のまき網（以下、その他のまき網とする）の努力量は、標本船の網数①（補足表2-2①、以下①とする）を、標本船の漁獲量②と、その他のまき網による漁獲量⑧の比率を用いて引き延ばして推定した（⑨）。北部まき網とその他のまき網の漁獲効率の差を考慮するため、北部まき網漁業のCPUE⑥とその他のまき網のCPUE③の比率⑦を掛けて補正した（⑩）。

北部まき網の努力量は、分布回遊状況調査結果による網数④を、同調査による漁獲量⑤と主要港全体の漁獲量⑪の比率で引き伸ばした（⑫）。これらからまき網全体の総努力量⑬（⑩+⑫）を推定した。2012年の総努力量は1,575と推定され（⑮）、総努力量の過去5年間の平均の56%（⑯）に相当した。この値を常磐海域のまき網努力量の削減率とした。

補足表2 2. 常磐海域における努力量削減率の推定

北部まき網以外 のまき網(その他 のまき網)	標本船3ヶ統				⑧水揚量(千葉 銚子港以外+茨 城県大洗)	⑨ ①*⑧/② 努力量引き伸 ばし	⑩ ⑨*⑦ CPUE比で 補正
	①網数	②漁獲量	③ ②/① CPUE	⑦ ③/⑥ CPUE比			
2007	433	9,266	21	0.52	60,859	2,844	1,485
2008	443	13,155	30	0.66	60,030	2,022	1,324
2009	468	18,262	39	0.81	74,975	1,921	1,550
2010	441	14,220	32	0.56	49,138	1,524	849
2011	333	10,661	32	0.67	35,983	1,124	754
2012	291	10,169	35	0.70	56,978	1,630	1,142
北部まき網	分布回遊状況調査結果			⑥ ⑤/④ CPUE	⑪北部まき網漁 獲量(銚子港+ 大津+波崎)	⑫ ④*⑪/⑤ 努力量引き伸 ばし	⑬総努力量 ⑩+⑫
	④網数	⑤漁獲量	⑥ ⑤/④ CPUE				
2007	1572	64,424	41		82,501	2,013	3,498
2008	621	28,151	45		41,670	919	2,243
2009	476	23,027	48		40,465	836	2,386
2010	553	31,994	58		57,305	990	1,840
2011	584	27,881	48		43,096	903	1,656
2012	17	848	50		8,517	171	1,312

⑭過去5年平均努力量(⑬の07～11年平均)

2,325

⑮2012年想定努力量⑬

1,312

⑯常磐海域まき網努力量削減率⑮/⑭

56%

ただし、分布回遊状況調査で報告される網数と漁獲量（④、⑤）は大中型1そうまきによる数値であり、一方⑪に示した北部まき網漁獲量は2そうまきによる漁獲量も含まれる。現時点では北部まき網による漁獲量として報告される値を1そうまき・2そうまきに分離できなかったことから、1そうまきによる網数と漁獲量を、北部まき網全体に引き伸ばした。このため、努力量削減率⑯は不確実性の高い数値であることに留意する必要がある。

1歳魚以上のFの削減率を推定するため、常磐海域の漁獲によるFを推定した。

- 1) ターミナルFに過去5年平均のFを与えたコホート計算を行い、これで得られる2012年のFを初期値とした。
- 2) 2007年～2011年の常磐海域における1歳魚および2歳魚の漁獲尾数の太平洋側に占める比率は、1歳魚は平均で54.4%、2歳魚は63%であった（補足表2 3）ことから、1)で得られた年齢別Fのうち、常磐海域の漁獲尾数の比率を達成するFを探索的に求めた。
- 3) 2)でえられた常磐海域の2012年の年齢別Fを、補足表2-2で得られた削減率56%で引き下げ、これを2012年のFとして再度計算した。
- 4) 3)の操作により、2007～2011年の平均Fの値が更新されるため、2)～3)の操作を繰り返して値を収束させた。

これによりFの過去年平均は1歳魚1.20、2歳魚2.44、2012年のFは1歳魚0.90、2歳魚1.67となり、2012年のFの削減率は1歳魚76%、2歳魚68%と推定された（補足表2 3）。以上から、2012年のFは、0歳魚0.12、1歳魚0.90、2歳魚以上1.67としてコホート計算を行い、2012年までの資源尾数等を推定した。

補足表2 3. Fの削減率の推定

	常磐海域の漁獲尾数の 全体に占める比率	
	1歳魚	2歳魚
2007	65%	73%
2008	49%	78%
2009	57%	55%
2010	46%	47%
2011	54%	63%
2012	56%	45%
2007 2011年平均	54%	63%
2007 2011年平均F	1.20	2.44
常磐海域のF	0.67	1.78
常磐海域以外のF	0.53	0.66
常磐海域Fを努力量の削減 率で引き下げ	0.38	1.00
削減後の全体F	0.90	1.67
削減率	76%	68%

将来予測

F_{current}（現状のF）は、0歳魚のFについては出現状況によって年々変動しており、その予測は難しいことから、直近年を除く過去5年（2007～2011年）の平均のFを仮定した。1歳魚以上のFについては、2012年のような北部まき網の努力量が少ない状況が継続するかどうか不透明であるが、2013年については2012年と同様の状態が継続していることから、今後とも1歳魚以上のFは2011年以前より低い傾向が続くことを仮定し、最近年を除く過去5年平均に、2012年について計算されたFの削減率を乗じた値をF_{current}とした。

ABC算定に用いる将来の選択率は、 $F_{current}$ の選択率とした。

2013年以降の加入尾数は、各年の親魚量と1989年以降のRPSの中央値（174.1尾/kg）により推定した。また、2013年以降の漁獲尾数については以下の式により推定した。

$$\begin{aligned} \text{(2013年以降の資源尾数) (0歳魚)} \quad N_{0,y} &= 174.1 \times SSB_y \\ &\text{*SSByはy年の親魚重量} \\ \text{(1歳魚以上)} \quad N_{a,y} &= N_{a-1,y-1} e^{-(F_{a-1,y-1} + M_{a-1})} \\ \text{(2013年以降の漁獲尾数)} \quad C_{a,y} &= N_{a,y} (1 - e^{-F_{a,y}}) e^{-M_a/2} \end{aligned}$$

自然死亡係数M

Mについては平成18年度の資源評価より算出方法を改め、von Bertalanffyの成長式の極限体長 L_∞ 、成長係数Kおよび水温から平均のMを求める経験則 (Pauly 1980) を採用し、実際にはこの式を改訂した推定式 (Quinn and Deriso 1999) から算出した。

$$\ln M = 0.0152 + 0.279 \ln L_\infty + 0.6543 \ln K + 0.4634 \ln T$$

年齢-体長関係の仮定から L_∞ は17.0cm、Kは0.67とし、平均水温Tは、1950～2000年の黒潮域（11～5月）及び黒潮親潮移行域（6～10月）の平均水温21.1℃とした。太平洋系カタクチイワシのような小型浮魚類では、高齢になってもカツオなど大型魚類や大型鯨類などの海産哺乳類の強い捕食圧にさらされている上に、再生産活動による消耗と老衰によって高齢魚のMは急速に増加するため、成長に伴うMの変化傾向は典型的なBathtub曲線を描くと考えられる。そこでChen and Watanabe (1989) を参考に、経験則から求められた平均のMを各年齢に分配した。なお、0～1歳については北米産カタクチイワシのMを発育段階ごとに調べたButler et al. (1993) の報告から、Early adult～Late adultの推定値である1.0を採用した（補足表2-2）。なお、Bathtub曲線によりシラス期のMは付表 2の0歳魚の値よりも高くなるが、本報告ではシラス期の漁獲は資源評価の対象に含めていないため、若齢魚のMは低い値となっている。

補足表2 4. カタクチイワシ太平洋系群の自然死亡係数

0歳	1.0
1歳	1.0
2歳	1.6
3歳	1.9

引用文献

- Butler, J.L., P.E. Smith and N.C.H. Lo (1993) The effect of natural variability of life-history parameters on anchovy and sardine population growth. *CalCOFI Rep.*, 34, 104-111.
- Chen, S. and S. Watanabe (1989) Age dependence of natural mortality coefficient in Fish population dynamics. *Nippon Suisan Gakkaishi*, 55, 205-208.
- 石田 実・菊地 弘 (1992) 日本の太平洋岸（常磐～薩南海域）におけるマイワシ、カタクチイワシ、サバ類の月別、海域別産卵状況:1989年1月～1990年12月. 水産庁南西海区水産研究所・中央水産研究所, 86 pp.
- 菊地 弘・小西芳信 (1990) 日本の太平洋岸（常磐～薩南海域）におけるマイワシ、カタクチイワシ、サバ類の月別、海域別産卵状況:1987年1月～1988年12月. 水産庁中央水産研究所（旧東海区水産研究所）・南西海区水産研究所, 72pp.
- 久保田洋・大関芳沖・石田 実・小西芳信・後藤常夫・銭谷 弘・木村 量（編）(1999) 日本周辺水域におけるマイワシ、カタクチイワシ、サバ類、ウルメイワシ、およびマアジの卵仔魚とスルメイカ幼生の月別分布状況:1994年1月～1996年12月. 中央水産研究所, 352pp.
- 森慶一郎・黒田一紀・小西芳信 (1988) 日本の太平洋岸（常磐～薩南海域）におけるマイワシ、カタクチイワシ、サバ類の月別、海域別産卵状況:1978年1月～1986年12月. 水産庁東海区水産研究所, 321pp.
- Pauly, D. (1980) On the interrelationships between natural mortality, growth parameters, and mean environmental temperature in 175 fish stocks. *J. Cons. Int. Explor. Mer.*, 39, 175-192.
- Pope, J.G. (1972) An investigation of the accuracy of virtual population analysis using cohort analysis. *Inst. Comm. Northwest Atlant. Fish. Res. Bull.*, 9, 65-74.
- Quinn, T.J.II and R.B. Deriso (1999) *Quantitative Fish Dynamics*. Oxford University Press, New York., 542pp.
- Takasuka, A., Y. Oozeki, H. Kubota, Y. Tsuruta and T. Funamoto (2005) Temperature impacts on reproductive parameters for Japanese anchovy: Comparison between inshore and offshore waters. *Fish. Res.*, 76, 475-482.
- 銭谷 弘・石田 実・小西芳信・後藤常夫・渡邊良朗・木村 量（編）(1995) 日本周辺水域におけるマイワシ、カタクチイワシ、サバ類、ウルメイワシ、およびマアジの卵仔魚とスルメイカ幼生の月別分布状況:1991年1月～1993年12月. 中央水産研究所, 368pp.

補足資料3

カタクチイワシの成長・寿命については、系群間で大きく異なる可能性が示唆されており、諸説が提唱されている。太平洋系群については、鱗の読輪結果を基に各県水

試との協議の結果、寿命を4年（3歳の最後で死亡）としている。

カタクチイワシの寿命と成長速度に関して、八角ほか (2007) では、これまで報告されているカタクチイワシの成長様式の違いは、年級群毎の成長速度の違いに起因すると考えるのが妥当であるとの結論を得た。この研究では、1997年級群、1998年級群および2001～2004年級群は本資源評価報告において適用しているHayashi and Kondo (1957)と同様の成長様式で体長13 cm台に成長するまで約2年を要したが、1999年級群および2000年級群は満1歳時の春季において既に体長13 cm台に達し、極めて速い成長を示したと報告された。また、茨城水試と中央水研浅海増殖部との共同研究により、鱗の輪紋および耳石輪紋の両者による年輪解析結果がほぼ適合した。1999年級群および2000年級群のような成長の速い年級群は、1歳魚の夏季の産卵後に死亡し2歳魚としての漁獲に繋がらないことも、八角ほか (2007) および最近年の漁海況予報事業において把握されている。最近では2007年級群が極めて成長の速い年級であり、漁況や調査状況から、1歳魚の春季に体長13 cm台に達し、春夏季の産卵後にほとんどが死亡したと考えられた。

以上の結果は、体長年齢関係に基づく年齢別漁獲尾数推定によるコホート解析の困難性を示唆するものであり、厳密には毎年耳石あるいは鱗の解析による年齢別漁獲尾数の推定を行う必要があることを示唆している。しかしながら、TAC対象種でなく、かつ、まき網漁業においてマイワシおよびサバ類より優先度の低い本種に対し、経費と時間をかけて毎年変動する体長-年齢関係に高い精度を追求しコホート解析に取り込むことは現実的でない。当面は主要な海域において年級群毎の成長様式の特徴を可能な範囲で把握し、将来予測を見誤らないよう対処していくことが現実的である。

引用文献

Hayashi, S. and K. Kondo (1957) Growth of the Japanese Anchovy-IV. Age determination with the use of scales. Bull. Tokai Reg. Fish. Res. Lab., 17, 31-64, pls.1-4.

八角直道・平野和夫・森 泰雄・永島 宏 (2007) カタクチイワシの成長および寿命の再検討.黒潮の資源海洋研究, 8, 67-78.